

文献資料目録

第 I 期

弘前市立博物館

凡 例

1. この目録は、弘前市立博物館が収蔵する津軽家文書191点、郷土一括資料(故八木橋武実氏旧蔵) 757点、計948点を収録したものである。
1. 資料の配列は、津軽家文書においては、まず大きく歴代藩主関係の順に並べ、各藩主のグループの中は年月日順に記載した。

旧八木橋文書においては、①御用状等 ②達・触等 ③伺書 ④上書・口上書等 ⑤廻状等 ⑥覚 ⑦書状・断簡 ⑧その他と、おおよそ公的な関係のものを前に、私的な関係のものを後に配列した。
1. 記載事項は、資料名、差出人(筆者)、宛先、年・月・日、注記、備考の順になっている。津軽家文書においては、〔注記〕に史料内容の原文の一部を、御書取等は全文を紹介し、適宜人物等の解説も加えた。〔備考〕には、弘前市立図書館所蔵の郷土関係文書の中で参考になる文書を、調べのついた限り掲げた。
1. 旧八木橋文書においては、〔資料名〕は原題がついていないので、内容の要約を現代語で〔内容〕に記載した。〔注記〕には人物の解説、弘前市立図書館所蔵の郷土関係文書との関連、文書の状態等を記した。
1. 分類番号欄の番号が、資料検索の一助となる。

津軽家文書

分類番号	資料名	差出人	宛先	年・月・日	注記	備考
1	軸物鑑定書	法橋牛庵		延宝五丁巳年 (1677) 臘月上旬	京極黄門定家御文。京極黄門定家とは藤原定家。大正7年の売立目録に「定家卿歌切」と記載あり。	
2	浜手御屋敷一件			延宝九辛酉年 (1681) 四月朔日、六月十四日	妙心院様(4代・信政)御代、幕府への提出書類の覚。本所御屋敷御用地ニ被召上候。	
3	寧親公 御實名	戸澤國禎		天明二壬寅歳 (1782) 孟夏吉日	水性之人 實名「寧親」ヤスチカ 冊能年字	桐箱入り
4	跡式奉願候覚	津軽越中守(信寧)	松平周防守(康福) 田沼主殿頭(意次) 久世大和守(廣明)	天明四甲辰年 (1784) 閏正月	信寧は天明四年閏正月二日没(48歳)。8代・信明(25歳)が2月30日家督相続。	
5	上仙院様侍従様 御書判				上仙院は津軽寧親。書判とは花押のこと。	
6	方々様御統書				松平和泉守(乗寛)様之御家内様/醍醐様御統書/黒田様・松浦様御系譜抜粋/土佐守様(8代信明)御養子津軽出羽守様(9代寧親)統書/黒田様書抜。	
7	御系譜抄出				津軽信著代～寧親代	
8	御精進日調入				公儀御精進：家康～10代・家治/戒香院(信寧)、体孝院(信明)、玄圭院(信寿)御法事/近衛様御精進日：豫楽院(家熙)～轉陵院(尾張・徳川宗睦室)/御裏方様：慶林院(信義室)～慈昭院(信寿女染姫)/御精進日調覚：瑞祥院(為信)～體孝院(8代・信明)ほか。精進とは、魚鳥獸肉など生ぐさ物を断つこと。	
9	滞府養生願書	津軽越中守(寧親) 家来 河合半右衛門		二月廿一日	寧親、旧冬以来持病の疝積とめまいにより滞府養生を願う。国元の政事及び北方警備は名代として大隅守(信順)に行わせたい旨の内意伺。御書取あり(滞府之儀相願可申候事)。	
10	屋形様御不快二付津軽甲斐守殿其儘在邑仕御名代御願之儀御内意伺書	津軽越中守(寧親)	御用番 水野出羽守	四月	…又先頃方鬱滞強飲食相進不申…杉本忠温薬用石坂宗哲鍼治…此節分知津軽甲斐守儀參府可仕処痔疾差発…私為名代先其儘在邑仕私病氣快氣次第御暇被仰出在着之上者甲斐守儀參府仕候様被仰付被下度此段奉願候。御書取あり(表立月番江相願可申候事)。	

分類番号	資料名	差出人	宛先	年・月・日	注記	備考
11	滞府養生願	津軽越中守(寧親) 家来 笠原八郎兵衛	松平伊豆守(信明)	六月二六日	当春御在所江之御暇被仰出候後御不快ニ而… 為御名代御分家津軽甲斐守(黒石藩8代親 足)御暇…御滞府御願之儀…御内意奉伺候。 御書取を欠く。	
12	御府内供廻御駕籠脇之侍相 増二付伺書案文	津軽越中守(寧親) /津軽越中守御使者 杉山小藤太		六月二七日	駕籠の侍に在所者を交えて連れているが、江 戸不案内の者多く、時により2人見習として 付けたいという願ひ。津軽越中守御使 杉山 小藤太 覚え添付	
13	満佐姫様御縁談一件 下書 3通	津軽越中守(寧親)		十月十日/	圓臺院宮様江 越中守 御家用中迄申上候私 先祖御由緒之筋を以内府様江私三女御縁談之 儀…此旨宜御執成頼入存候。圓臺院は近衛経 熙室。内府は近衛基前(経熙の子)。/御病身 ニ付無残御断之儀/満佐儀久々病氣今以同一 遍ニ罷在候間御縁談之儀御断…(11月)。	
14	満佐姫様御縁談一件			十月十一日	満佐姫様御縁談御断之儀御聞濟尚又於共様御 縁談之儀…。満佐姫は寧親の女。於共(友)も 寧親の女。	
15	上方并御縁談之反古 か	津軽越中守(寧親) か		十一月	御縁談被仰出候ニ付…為使者津軽頼母上京仕 候處段々御心入之御取扱不浅満足…宜様御取 斗之儀御頼被申候…。	
16	津軽吉之助系譜	津軽吉之助		寛政十一己未 年(1799) 十二月	黒石津軽家7代。のち豊暁	
17	寄附状扣	杉山小藤太, 稲葉丹下, 桜庭半兵衛, 喜多村監 物	實教院御坊中	享和元辛酉年 (1801) 十二月	津軽越中守(寧親)より宿坊へ年に金20両宛寄 附。	TK175-66 日光一件 御手扣 (実教院江到着 折本)
18	大川端抱屋敷御願書案文 3通	津軽越中守(寧親) か		享和二壬戌年 (1802)か	私拝領屋鋪式ケ所御座候處一跡古来方定府之 者多御座候故差置候場所行届兼申候…本所向 寄ニ而小地面ニ而茂下屋鋪壹ケ所拝領仕度… 御内意奉伺候。/大川端無年買地抱屋鋪四百 九十一坪之場所拝領屋鋪ニ被成下候様奉願候。 /拝領地ニ仕追而居屋敷最寄ニ而相応之坪数 有之屋敷と相對替仕家来差置候場所ニ仕度… 御内意奉伺候	
19	大川端抱屋敷御願書 ほか	津軽越中守(寧親) か		享和二壬戌年 (1802)か, 四月廿六日	南本所大川端抱屋敷581坪(年買地90坪, 無年 買地491坪)を拝領地に願ひ出る。御書取(書 面内意之趣抱屋敷之内年買地者相除其餘之分 拝領屋鋪ニ相願不苦候事)/寛政元年(1789) 酒井左衛門尉の拝領願ひの例書。	

分類番号	資料名	差出人	宛先	年・月・日	注記	備考
20	大川端抱屋敷御願書	松平伊豆守(信明)	津軽越中守(寧親)	享和二壬戌年(1802)か、五月十三日	御書取(書面之通表立可差出旨可致挨拶事)。御内覧之書付…年貢有之地面ハ除キ其餘無年貢地之分此度御拝領御願被成候と申儀…可然哉。	
21	本所大川端御抱屋敷御拝領御礼二付御伺書	津軽越中守(寧親) 家来 服部又市	松平伊豆守(信明)	享和二壬戌年(1802) 九月廿五日	津軽越中守願之通南本所大川端抱屋敷四百九拾壹坪拝領地被成下候旨…右ニ付御礼之儀如何相心得可申候哉…。御付紙あり(使札差越候様可仕候)。	TK387-4 大川端御屋敷就御拝領御祝儀御規式帳
22	下馬よ里下乗御玄関前迄召連候人数伺書	津軽越中守(寧親) 家来 服部又市		享和二壬戌年(1802) 十月廿五日	下馬よ里下乗迄、下乗よ里御玄関前迄召連候人数。御付紙あり(陸尺差配之者、供使、挾箱持以來相止候而可然候)。	
23	大川端拝領屋敷一件	津軽越中守(寧親)		享和三癸亥年(1803) 閏正月	寛政10年(1798)8月有馬備後守が屋敷名称変更を願ひ出たときの例書。本所大川端屋敷を下屋敷と称したい旨伺う。下谷三味線堀屋敷は古来より中屋敷と称す。	TK203-63, 64, 75 大川端御屋敷絵図
24	御挾箱之御願御案文	津軽越中守(寧親)		文化二乙丑年(1805) 正月	文化元年12月、大目付井上美濃守(利恭)、目付土屋帯刀より「中御門外迄入候御挾箱相止候様御達」を受けて秋山松之丞へ相談して作成されたものだが、今回は聞き届けられないだろうということでお願ひを見合せた案文。中ノ御門外迄一ツ為持候挾箱迄茂今度相止候而者父祖江対候而も不本意之儀…挾箱之儀者前文申上候趣ニ候座候間是迄之通中ノ御門外迄為持候様…。	
25	拾万石御高直二付御挾箱二ツ中之御門外迄為御持之儀伺書	津軽越中守(寧親) 家来 河合勤兵衛	御用番 青山下野守(忠裕)	文化五戊辰年(1808) 十二月廿日	今般四品被仰付格段家格茂相直候ニ付御同席並合茂御座候得者何卒以前之通持せ候様仕度…。御付紙に「四品被叙候二付不苦候」とあり。裏付紙に「四品御昇進以前ニ而茂御家督ニ候得者中之御門外迄為御持ニ而不苦誓…天保十五年十月…」。	
26	拾万石四品被為仰蒙候二付御礼之節御献上物之儀伺書	津軽越中守(寧親)	御用番	文化五戊辰年(1808) 十二月廿三日	私儀此度領分之高拾万石直被下四品被仰付候御禮申上候節公方様(11代・徳川家斉)大納言様御臺様江之献上物之儀…。御付紙あり(領分之高被直下候御礼申上候節 公方様江…大納言様江…四品之御礼申上候節 公方様…大納言様…御臺様江者不及差上物候)。包み紙に「御高直反故之内 見出置 文化十二亥年正月」とあり	
27	四品被仰付候御礼申上候節贈物之儀伺	津軽越中守(寧親)	御用番	文化五戊辰年(1808) 十二月廿四日	御礼申上候節御老女并御表使中江贈物之儀…。御付紙あり(白銀貳枚充 御本丸老女…)。包み紙に「御高直反故之内 見出置 文化十二	

分類番号	資料名	差出人	宛先	年・月・日	注記	備考
					亥年正月」とある。	
28	四品被為蒙仰候二付年頭御装束二而御登城之節御足袋御用願書	津輕越中守(寧親)		文化五戊辰年(1808)十二月廿四日	御付紙あり(足袋用可被申候)。包み紙に「御高直反故之内に見出置 文化十二亥年正月」とある。	TK385-134 装束二テ年始登城 拝礼之節足袋相用 度儀願書
29	於共様御縁談一件	津輕越中守(寧親)		文化七庚午年(1810)か、六月五日/六月十五日	主斗頭様越中守様江御咄被遊候於共様御事小笠原土用犬丸様江御縁組御内談之儀…先御奥様と御内意御伺被進候様御頼思召候…。安西助市が使者を勤めた。/於共様御縁談之儀御密究様江も被及御相談候處何之思召茂無御座候付弥御相談被成度…。於共(友)は寧親の女。小笠原土用犬丸は小笠原長貫、越前勝山藩第7代当主、2万2千七百石。この縁談は実らず、於共は文化8年4月に死去する(享年14歳)。	TK386-41 共様縁組願之通 被仰付御礼之儀御 奉書
30	御暇後御発駕御延引之儀御内意伺書/案文	津輕越中守(寧親)		文化八辛未年(1811)二月廿八日	舊年以来無拋用向差湊申候…蝦夷地御固メ向ニ付御差障之儀無御座候者用向相弁候迄暫出立延引仕度…。御内意は松平伊豆守(信明)より。御付紙あり(可為勝手次第候)。御書取あり(内意之趣者難相成筋二候…御暇以後其段被申聞三十日程者発足延引候而も不苦候事)。	
31	津輕玄意系譜 御履調一件	津輕家	津輕玄意	文化八辛未年(1811)十月	津輕玄意より家筋について問合せ書付の写し	
32	花山院忠長卿御家系之写2通	花山院殿家實花葉加賀介 橋正之	津輕家	文化十一甲戌年(1814)四月八日	花山院忠長：天正16年(1588)～寛文2年(1662)、江戸時代前期の公家。左大臣花山院定熙の次男。慶長14年(1609)7月、烏丸光弘らとともに宮女と密会し遊興にふけたことが発覚して勅勘を受け、松前に配流され、のち津輕に移された。	TK215-35 花山院少将御赦免 之儀御奉書
33	近衛様御旅館江御使者被差出候儀二付御内意伺書	津輕越中守(寧親) 家来 河合半右衛門	土井大炊頭(利和)	文化十二乙亥年(1815)か、四月十八日	近衛左大臣様(基前)御参向ニ付江戸御旅館江越中守并嫡子大隅守為見舞罷越…御逗留中使者并音物等差出…。御書取あり(書面之趣承置候間別段相伺候二不及候事)。	TK387-322 近衛様日光御法会 二付参向之節大隅 守見舞罷越申度儀 御伺書
34	御下向人馬遣伺書	津輕越中守(寧親) 家来 河合半右衛門	勘定奉行 柳生主膳正(久通)	文化十四丁丑年(1817)二月九日	寛 一人足 貳拾五人 一馬 貳拾五疋 宛右者出立当日朝夕遣…右者越中守当三月御暇之節右之通人馬遣申度奉存候…精々減少仕候得共遠路之儀ニ付荷嵩相成行届兼候間前文之通人馬先觸差出申度奉存候…。御付紙あり(書面之趣承届候…)。	

分類番号	資料名	差出人	宛先	年・月・日	注記	備考
35	満佐姫様御離縁御口上書	安藤対馬守様御使者 加茂下左内, 副使 立 川彦左衛門	津輕越中守 (寧親)	文化十四丁丑 年 (1817) 三月晦日	御離縁届は4月3日御用番青山下野守 (忠裕)へ差し出す。満佐姫は寧親の女。安藤対馬守とは、安藤新次郎信義、陸奥国磐城平藩第8代藩主、5万石、雁間詰。満佐姫はのちに板倉阿波守、岩城伊予守に嫁ぐ。	TK386-94 満佐姫様御婚礼詰 御規式御献立帳, YK289-15-1 満佐姫様御離縁一 件御用留
36	御田圃之儀願書	津輕越中守 (寧親) 家来 笠原八郎兵衛	勘定奉行 服部伊賀守 (貞勝)	文化十四丁丑 年 (1817) 四月廿二日	江戸大坂田圃之分共何卒其儘領内為備初置申度奉存候拜借金銀之儀者此度被仰出候拂高二不抱窓高取詰当丑年5拾ケ年上納被仰付被下置度奉願候…此度申上候備初之儀者豊凶ニ寄追年増減仕候儀者其度々御届不申上候不苦候者被仰付被下置度旨…。御付紙あり (…右者兼而格別之被仰出も有之候田圃之儀二付問合之通ニ者難相成筋と存候併此度被仰出候半高丈ケ之拜借金銀被致返納可被拂半高之田圃領分之手当田圃之方江被田替候儀者不苦筋と存候。五月 服部伊賀守, 岸彦十郎)。	
37	御献上御馬御伺書	津輕越中守 (寧親) 家来 三浦権四郎	御用番 青山下野守 (忠裕)	文化十四丁丑 年 (1817) 四月二八日	隔年6月7月に両御丸に献上していた馬を、5月に献上したい。御書取あり (来月中献上候而茂不苦候事)。	
38	公方様御実母様御死去二付御臆中伺御機嫌御献上物伺書	津輕越中守 (寧親) 家来 三浦権四郎		文化十四丁丑 年 (1817) 五月十日	御臆中為伺御機嫌 公方様 (第11代・家斉) 右大将様江献上物之儀…兎足延引養生仕罷在候間右献上物之儀如何相心得可申候哉…。御書取あり (在邑之通ニ相心得可申事)。5月8日に逝去。	
39	屋形様御不快二付発駕延引伺書	津輕越中守 (寧親) 家来 笠原八郎兵衛	御用番 松平伊豆守 (信明)	文化十四丁丑 年 (1817) 五月二九日	…早速御全快之御様子無之候間今暫御出立御延引被成御薬用度思召候…猶又御滞府之儀御願…御内意奉伺候。御書取あり (…六月中出立延引之儀ハ滞府願延引届等被申聞候ニハ不及候其以後も出立難相成候ハ、前以猶又内意可被相伺候事)。	TK322.5-144 御暇被仰出候後不 快二付滞府養生仕 度儀願書
40	淑姫君様御逝去二付御臆中為伺御機嫌御献上物伺書	津輕越中守 (寧親) 家来 河合半右衛門	御用番 松平伊豆守 (信明)	文化十四丁丑 年 (1817) 六月三日	御臆中為伺御機嫌 公方様 右大将様 御臺様江献上物之儀…越中守様…御病氣ニ而此節被成御滞府候依之右御献上物之儀如何可被成御心得哉…。御書取あり (献上物ニ不及候事)。淑姫は尾張・徳川斉朝の室。	TK386-37~39 淑姫君様御結納儀 目出度旨言上之儀 御奉書
41	屋形様御快候二付御出勤并御歩行之儀御内意伺書	津輕越中守 (寧親) 家来 笠原八郎兵衛	御用番 酒井若狭守 (忠進)	文化十四丁丑 年 (1817) 八月朔日	滞府養生仕候處有増快方ニ付…来ル十六日頃爰元致発足度合御座候随而出勤之儀者以使者御用番様江御届申上候仕来ニ御座候間右之通相心得可申候…。御書取あり (書面之通り相心得不苦候事)。	

分類番号	資料名	差出人	宛先	年・月・日	注記	備考
42	御即位二付御付届之儀伺書	津軽越中守(寧親) 家来 河合半右衛門	御用番 酒井若狭守 (忠進)	文化十四丁丑 年(1817) 八月十一日	此度御即位ニ付 禁裏 仙洞 中宮江以使者 御祝儀申上候節傳 奏御方長橋御局其外附届 …越中守高直後初而之儀ニ付先格等茂無御座 候間並合之通相心得可申候哉…御内意奉伺候。 9月21日,仁孝天皇即位。御書取あり(並之通 相心得可申候事)。	TK209-10 御即位一件, TK209-48 御即位御祝儀献上 之儀御書付
43	澄明院様御法事中為伺御機 嫌在府四品已上御献上物之 儀御内意伺書	津軽越中守(寧親) 家来 河合半右衛門	阿部備中守(正精)	文政元戊寅年 (1818) 八月廿日	…四品拾万石以上御干菓子一箱宛献上仕候様 …御参勤御禮已前ニ茂可有御座候ニ付右御献 上物之儀如何相心得可申哉…。御書取あり (参勤御礼前ニ候得ハ献上ニ不及候事)。澄 明院は10代將軍・家治。	
44	屋形様滞府二付御内意伺書	津軽越中守(寧親) 家来 笠原八郎兵衛	阿部備中守(正精)	文政二己卯年 (1819) 八月十六日	…為御名代大隅守様被成御在邑候儀者御座候 得共越中守様早速被成御出勤兼候儀猶又表向 御用番様江御届被仰上候方ニ茂可有御座候哉 …。御書取あり(内意之趣表立月番江届可申 聞事)。	
45	御郡代金御拝借之儀二付御 願書	津軽越中守(寧親) 家来 兼松伴大夫	勘定奉行 村垣淡路守 (定行)	文政二己卯年 (1819) 十一月	去寅年(文政元年)…老万両拝借奉願候處前 書老万両之内去十二月貳千両御渡被仰付候右 貳千両御元金御居置被仰付利金上納仕度奉願 候。御付紙あり(書面御貸附利金被相納候て 元金貳千両者貸居可相成間馬喰町御用屋敷内 御貸附役所江可被申立候)。	
46	浅姫君様御婚礼済為御祝儀 若殿様方御使札可被差出哉 之儀伺書	津軽越中守(寧親) 家来 河合半右衛門	御用番 青山下野守 (忠裕)	文政二己卯年 (1818) 十一月廿二日	…在国在所之面々者御婚禮之儀承候上追而使 札を以御祝儀可申上旨御觸…大隅守(信順) 儀越中守(寧親)為名代在邑罷在候間使札を 以右御祝儀申上候心得ニ御座候…。御書取あり (使札差越可申候事)。浅姫は將軍・家齊の 女,松平仁之助(のち齊承)へ嫁す。使札と は,將軍家に御祝儀ごとがあつたとき,幕府 からの通達を受けて国元にいる大名が使者を 立てて祝意を表した書札を老中を介して差上 げる場合があつたが,その書札のこと。	
47	文姫君様,盛姫君様御縁組 為祝儀之儀伺書	津軽越中守(寧親) 家来 河合半右衛門	御用番 大久保加賀守 (忠眞)	文政二己卯年 (1819) 十二月五日	大隅守儀越中守為名代在邑罷在候間以使札右 御祝儀申上候心得ニ御座候…。御書取あり (飛札差越候様可仕事)。二人の娘は將軍・家 齊の女。文姫は松平貞五郎頼胤へ,盛姫は鍋 島貞丸へ嫁す。飛札とは,上記「使札」を飛脚 に託して運ばせた書札のこと。通常,使札は 5万石以上の大名,飛札はそれ以下の大名が 用いた。	TK386-43 文姫君様御婚礼御 祝目録献上披露之 儀御書付
48	大隅守様御参府御延着之段 御内意伺書	津軽越中守(寧親) 家来 河合半右衛門	阿部備中守(正精)	文政三庚辰年 (1820)	…時候被成御感冒…去月廿四日御在所被成御 発足…来ル十五日御着府之積御座候依之御延	

分類番号	資料名	差出人	宛先	年・月・日	注記	備考
				九月朔日	着之段御届置可被成候哉…。御書取あり（書面之趣家来之名前二而無急度月番江届申聞可然事）。	
49	例年御献上御鷹之儀二付伺書	津軽越中守（寧親） 家来 藤田荘助	青山下野守（忠裕）	文政三庚辰年 （1820） 九月廿五日	例年10月・11月献上之若黄鷹5連を9月中に献上したい。御書取あり（此節献上候而不苦候事）	TK387-165 第8 若黄鷹献上披露之儀御奉書
50	御金五千両御拝借願	津軽越中守（寧親） 家来 兼松伴太夫	勘定奉行 石川主水正 （忠房）	文政三庚辰年 （1820） 十一月三日	現在までの拝借金が5千両であるが、この年米価下落につき廻米払代金格段に減金仕候につき更に5千両の拝借を願う。御付紙あり（書面御貸付金五千両此節被借請度旨被申立候處差当り可貸出御貸付金無之…）。	
51	御貸付金御居置願書	津軽越中守（寧親） 家来 河合半右衛門	御用預勘定奉行 村垣淡路守（定行）	文政三庚辰年 （1820） 十二月十二日	文政元年（1818）～3年までの拝借金5千両の元金は居置き、利息を払いたい旨の願ひ。御付紙あり（書面御貸付金証文面日限迄二利金皆納有之候得者元金者貸居相成候間可被得其意候）。	
52	文政四巳年四月御下向之節御道中臨時一件取調帳入	御用人御留守居兼 笠原八郎兵衛		（文政五年八月以降）	文政4年4月の相馬大作事件の一括資料	桐箱入り8冊
53	定例之時節参府候様御口達書之写	津軽越中守（寧親） 家来 奥山主税助		文政七甲申年 （1824） 四月廿四日	万石以上之面々近来病氣等ニ而定例参勤之時節と延引之衆多く候参勤交替之儀者無遅滞様兼々可被心構事…。病気による参府延引について、御用番青山下野守御宅にて達し。この日は津軽越中守と細井出雲守が呼び出された。	
54	覚 津軽柳原御屋敷の白狐について	津軽越中守（寧親） 御側役 北川族、衣笠半助、田井友衛、桜庭清八		文政七甲申年 （1824） 九月吉日	文政6年8月の大風で柳原御屋敷の柳の大木が傷み、寧親公がこの木に白狐一對を彫刻させ、屋敷内の稻荷宮へ奉納した。そういう品なので大切に扱うことという覚え。	TK175-70 御屋敷鎮守白狐之稻荷縁起
55	隠居年頭御礼登城并両山拝禮之儀／御目通家来衣服伺書	津軽越中守（寧親） 家来 河合半右衛門	大目付 石谷備後守 （清豊）	文政八乙酉年 （1825） 二月	…病氣等ニ而以名代申上候儀ニ御座候哉…。御付紙あり（書面隠居年頭御礼登城之儀四品以上之隠居ニ而者正月七日登城…病氣等ニ候ハ>御名代使者献上物致し可然存候）。両山拝禮については勝手次第／御目通家来三人、主人より拝領の紋付縮熨斗目着用について、御付紙あり。文化7年細川越中守例書。	
56	御隠居御家督願御内意伺書	津軽越中守（寧親） 家来 河合半右衛門	松平和泉守（乗寛）	文政八乙酉年 （1825） 三月十一日	大隅守への家督相続および隠居の御礼登城の願ひ。御書取あり（隠居被仰付候節并右御礼登城之儀不苦候事）。	TK289-473 御隠居御家督御願より御用召迄之一件
57	御隠居御家督御願濟之節御	津軽越中守（寧親）	松平和泉守（乗寛）	文政八乙酉年	…御家督被仰付御禮被仰上候節御家来三人御	

分類番号	資料名	差出人	宛先	年・月・日	注記	備考
	家来三人御目見被仰付候様御内意伺書	家来 河合半右衛門		(1825) 三月十一日	目通江御差出被成度思召候…当御高並丹羽左京大夫様御家督御禮之節茂御家来三人御目通…。御書取あり(家督御礼之節家来三人御目通江差出候儀者難相整筋二候事)。	
58	隠居願書	津軽越中守(寧親)	青山下野守(忠裕) 水野出羽守(忠成) 大久保加賀守(忠眞) 松平和泉守(乗寛)	文政八乙酉年 (1825) 四月七日	花押, 黒印あり。寧親65歳。嫡子津軽大隅守(信順)は同年4月23日家督相続。	TK387-8 御隠居御家督御礼被仰上候二付御二方様より御献上御目録并御献備御賦
59	御隠居願案文並び御家督請書	津軽越中守(寧親)	御連名/御老中 松平和泉守(乗寛)	文政八乙酉年 (1825) 四月七日	御書取あり(書面之通二而存寄無之候事)。老中松平和泉守(乗寛)内覧。	
60	御轎御用二付侍従様御差扣伺書	津軽右京大夫(寧親)	青山下野守(忠裕)	文政十丁亥年 (1827) 四月廿五日	同氏越中守(信順)不束之儀二付逼塞被仰付於私恐入候依之差控之儀奉伺候以上。信順の轎輿使用は4月25日。御付紙あり(差扣可被申候)	TK322.5-204 御逼塞一件
61	上仙院様銅板御位牌江之認方	御右筆		文久二壬戌年 (1862) 十月	上仙院は津軽寧親。銅板位牌の寸法は, 上幅4寸3歩, 下幅4寸, 丈1尺6寸, 厚さ3歩5厘。寧親の銅板位牌を作るに当たり信明の位牌について調査したその記録。	
62	仙櫻院殿御銅牌				仙櫻院は金(欽)姫。田安中納言齊匡の女, 信順室。嘉永4年(1851)9月14日没。	
63	南部大膳大夫殿御病氣二付若殿様御参府之義伺書御書取	阿部備中守(正精) か	津軽越中守(信順) 御留守居 笠原八郎兵衛		南部大膳大夫病氣二無構発足いたし若於旅中大切之段承り候とも其儘参府候様可仕事。南部大膳大夫は第37代藩主・利用(としもち), 文政8年7月没	
64	屋形様初而御国元江御暇被仰出候付来年御参府御時節之儀二付伺書	津軽大隅守(信順)	水野出羽守(忠成)	文政八乙酉年 (1825) 五月二日	…何月頃相伺候而可然哉此段奉伺候以上。御付紙あり(十一月中可被相伺候)。	
65	隠居願書	津軽甲斐守(親足)	青山下野守(忠裕) 水野出羽守(忠成) 大久保加賀守(忠眞) 松平和泉守(乗寛)	文政八乙酉年 (1825) 十一月	養子新之助(順徳のち順承)。	
66	戸越村松平因幡守様御下屋敷之内六千坪御拝領之絵図面	普請奉行 大河内肥前守	津軽越中守留守居 杉山織衛	文政十丁亥年 (1827) 閏六月廿九日	柳原八名川町通津軽越中守中屋敷御用二付家作共差上今度品川領戸越村松平因幡守殿下屋敷之内六千坪越中守拝領仕…。	TK203-68 戸越御屋舗絵図面
67	欽姫様江公方様寒氣為御尋御拝領物被遊候二付御礼勤	津軽越中守(信順) 家来 杉山織衛	御用番 水野出羽守(忠成)	文政十丁亥年 (1827)	越中守妻欽姫江今日寒氣為御尋從公方様御老女衆以御奉文拝領物被仰付候…御礼之儀如何	

分類番号	資料名	差出人	宛先	年・月・日	注記	備考
	伺書	津軽越中守(信順) 家来 杉山織衛		十一月廿七日	相心得可申候哉…。御付紙あり(飛札差越候様可候事)。欽姫は信順室。欽姫の実父田安中納言齊匡は11代將軍・家斉の実弟。	
68	本所二三之橋通御屋敷御借地御届書	津軽越中守(信順)	御用番 青山下野守(忠裕)	文政十丁亥年(1827) 十二月五日	私拝領品川領戸越村中屋鋪程遠ニ而家来之者差置候ニ茂差支…本所二三之橋通右何れ茂當時幸明地面ニ而…借地仕…家来之者差置申候依之御届申上候。御書取あり(書面借地之儀人数多ニも候間相對替被願候方ニ茂可有之哉ニ候事)。翌文政11年5月11日に御書取を受け取った。	
69	本所二三之橋通御屋敷御借地御届書	津軽越中守(信順)	御用番 青山下野守(忠裕)	文政十一戊子年(1828) 五月十五日	私拝領品川領戸越村中屋鋪程遠ニ而家来之者差置候ニ茂差支…本所二三之橋通右何れ茂當時幸明地…熟談之上借地仕地續ニ付届込家来之者差置申候依之御届申上候。御書取あり(承置候)	
70	本所二三之橋通御拝領屋敷御借地内意伺書	津軽越中守(信順) 家来 杉山織衛	御用番 青山下野守(忠裕)	文政十一戊子年(1828) 五月十八日	…品川戸越村中屋敷程遠ニ而家来之者差置候ニ茂差支之儀御座候間本所二三之橋通右何れ茂當時幸明地面ニ付熟談之上借地仕…家来之者差置申度…。御書取あり(書面借地四ヶ所ニ而不苦候間表立越中守より相届可申事) / …居屋敷焼失仕参府茂近寄候処家中之者差置候場所茂無御座甚差支難渋仕候…又候借地之儀…ヶ所相減借地之儀…御内意奉伺候。	
71	参府延引ニ付在邑之通暑中御機嫌伺之伺書	津軽越中守(信順) 家来 杉山織衛	松平周防守(康任)	文政十一戊子年(1828) 六月十二日	越中守在邑年暑中為伺御機嫌在所之煎海鼠一箱充両御丸江献上仕来候…若暑中在邑罷在候者伺御機嫌献上物如何相心得可申候哉…。御付紙あり(在邑年之通献上候様可仕候)。	
72	借地屋敷江罷越候節病氣等ニ而同所止宿之儀伺書	津軽越中守(信順) 家来 杉山織衛	大目付 石谷備後守(清豊)	文政十二己丑年(1829) 七月	越中守(信順)父隠居右京大夫(寧親)儀、浜町元矢倉宗対馬守様と借地屋敷江…罷帰候儀相成兼候節同所江致止宿候而茂不苦候哉…。御付紙あり(書面之通者不及何等不苦儀と存候)。宗対馬守は、対馬府中藩宗家第14代・義質。	TK526-20・21, M68 矢之倉御絵図面ほか
73	三ツ目御屋敷御相對替濟御奉書/御礼勤伺書	津軽越中守(信順) 家来 杉山織衛	津軽越中守/大久保加賀守(忠貞)	文政十二己丑年(1829) 十二月十三日	本所二三之橋之間の2,370坪余を津軽越中守へ願之通屋敷相對替被仰付候 / …御禮勤之儀如何相心得可申候哉…(12月14日)。御書取あり(飛札差越候様可仕候事)。文政10年酒井伊賀守例書添え。	
74	屋形様御足痛ニ付御参府御延着ニ付暑中煎海鼠御献上之儀伺書	津軽越中守(信順) 家来 杉山織衛	大久保加賀守(忠貞)	文政十三庚寅年(1830) 五月廿五日	…此節参府可仕処足痛強延着之段…若暑中在邑罷在候者伺御機嫌献上物如何相心得可申候哉。御付紙あり(在邑年之通献上候様可仕候)。	

分類番号	資料名	差出人	宛先	年・月・日	注記	備考
75	暑中在邑二付為伺御機嫌献上之儀伺書	津軽越中守(信順) 家来 徳永可助	御用番 大久保加賀守 (忠眞)	天保五甲午年 (1834) 六月十九日	候)。 …在所之煎海鼠一箱充両御丸江献上仕来候…暑中在邑仕居候ハ>伺御機嫌献上物如何相心得可申候哉。御付紙あり(在邑年之通献上候様可仕候)。	
76	参府延引御内意伺書	津軽越中守(信順)		天保五甲午年 (1834) 六月廿二日	延引の原因は、凶作による窮民対策を講じるため。御書取あり(表立願書可被差出候事)	
77	参府御延着之御願濟二付御礼勤之儀伺書	津軽越中守(信順) 家来 徳永可助	松平周防守(康任)	天保五甲午年 (1834) 六月廿六日	…去巳年非常之凶作二付当午年参勤秋頃迄御用捨之儀…願之通被仰出候…御礼勤之儀如何相心得可申候哉。御付紙あり(使札差越候様可仕候)	
78	侍従被為蒙仰候付両御丸御老女衆御表使乘江御贈物之儀伺書	津軽越中守(信順)	御用番 大久保加賀守 (忠眞)	天保五甲午年 (1834) 十二月十八日	覚 白銀 貳枚充 御本丸御老女衆…右之通私侍従之御禮申上候節相贈可申候哉。御付紙あり(何之通可被相贈候)。	
79	左近将監殿其儘在邑為仕度段御内意伺書	津軽越中守(信順)	御用番 大久保加賀守 (忠眞)	天保六乙未年 (1835) 二月十五日	…当年南部信濃守被下御暇在所到着之上左近将監儀参府候儀ニ茂御座候者同人儀当年御暇順年ニ茂御座候間其儘在邑仕候様私と奉伺候而不苦御儀御座候哉。左近将監は順承。御書取あり(書面之趣ハ相伺候而も難整筋ニ候事)。南部信濃守は第38藩主・利濟(としただ)、在藩主：文政8年～嘉永元年(1825～1848)	
80	滞府養生願	津軽越中守(信順)	松平和泉守(乗寛)	天保六乙未年 (1835) 五月七日	私儀先達而在所江之御暇被仰出候…逆茂早速出立可相成容跡無之旨…滞府養生仕度儀…為名代分知津軽左近将監在所江之御暇被仰出候様…。文化14年5月の例書添付。御書取あり(表立可被差出候事)。	
81	浚明院様五十回忌御法事二付侍従以上為伺御機嫌献上物御内意伺書	津軽越中守(信順) 家来 比良野文蔵	水野越前守(忠邦)	天保六乙未年 (1835) 八月廿二日	御法事中為何御機嫌侍従以上御檜重一組宛献上仕候様…病氣ニ付願之上此節滞府罷在候依之右献上物之儀如何相心得可申候哉…。御書取あり(書面之趣不及献上候事)。浚明院は10代將軍家治。	
82	屋形様御歩行御願書	津軽越中守(信順)	御用番 松平伯耆守	天保六乙未年 (1835) 十二月十九日	私儀病氣ニ付追々滞府…歩行相試候者可然旨…然處居屋敷甚手狭ニ付本所亀戸下屋敷江折々罷越歩行仕度奉存候此段奉願候。天保元年12月の南部信濃守(利濟)の例書添付。御書取あり(表立可被相伺候事)。	
83	西丸炎上二付御国許之檜葉角差上度儀御内意伺書	津軽越中守(信順)	水野越前守(忠邦)	天保九戊戌年 (1838)	…領分山々之杉檜葉之類伐取角物ニ致し奉差上度奉存候…。御書取あり(書面の木材ハ御	

分類番号	資料名	差出人	宛先	年・月・日	注記	備考
				五月三日	用ニ無之品ニ候事) / 家来比良野文蔵の覚書添え。材木7,000本、此節は杣入申付明春雪消之頃山出し仕明年之此節頃積登せニ相成可申奉存候(5月23日)。御書取あり(此書面相返候事)	
84	先御挾箱革覆取御長刀平日 為御持之御願書書写	津輕越中守(信順)	水野越前守(忠邦)	天保九戌戌年 (1838) 十二月	近年同席之内打物并ニ先箱之長革取相持せ候様何卒厚御慈評ヲ以古格之通り先箱之長革取打物も平差共ニ持せ候様…。御書取あり(書面願之趣ハ難相整候事)。安政4年(1857)閏5月、後人心得之為メ記置候の朱書あり。	
85	養子家督相続願内意伺	津輕越中守(信順)	御用番 水野越前守 (忠邦)	天保十己亥年 (1839)か/ 五月五日	信順43歳、男子なきにつき従来仮養子の黒石藩の左近将監(後の順承)を養子にして家督を譲り、黒石藩の家督は左近将監の弟斧勝(後の承保)へと願ひ、内意を伺う。御書取あり(書面内意之趣存寄無之候事。但津輕斧勝儀左近将監養方弟と相認可申候事)。	
86	隠居養子家督跡式相続願	津輕越中守(信順) / 家来 田井半人/ 使者 野上豆	御用番 水野越前守 (忠邦)	天保十己亥年 (1839) 五月五日/ 五月十三日	信順の隠居、左近将監(後の順承)の養子家督、左近将監の跡式を斧勝(のち黒石藩10代承保)へ相続の願書を、5月13日水野越前守へ届ける。	
87	隠居願書	津輕越中守(信順)	松平和泉守(乗寛) 水野越前守(忠邦) 太田備後守(資始) 脇坂中務大輔(安董)	天保十己亥年 (1839) 五月十三日	朱書き訂正あり。後嗣は黒石の左近将監(順承)が同年5月16日相続。	
88	寛広院様御銅牌			文久二壬戌年 (1862)か	寛広院は津輕信順。位牌の戒名覚え	
89	政徳院様御銅牌				政徳院は津輕順承。	
90	覚 細川家方々の御官位相 伺二付伺書	近衛家	津輕家		細川藤孝-忠興-忠利(肥後国・熊本藩初代)……齊樹(9代)-慶前(10代か)の官位、證之助・良之助の実名を問う。	
91	津輕系図	御右筆			信枚公から承祐公まで	
92	備立内習二付伺書	津輕大隅守(順承) 家来 皆川東馬		七月五日	甲冑二而相習候而茂不苦儀ニ御座候哉。御付紙あり(書面之通者被相伺候方と被存候)。	GK392-17 [御備立内習諸事 扱向]
93	若殿様御前髪執則日御勤向 ノ儀二付御内意伺書	津輕越中守(順承) 家来 三浦権四郎	松平伊豆守	九月二一日	越中守様御嫡大隅守様近々御前髪執…前髪御執被成候御当日御用番様并松平能登守様江為御届大隅守様御出可被成御儀ニ可有御座候哉。御書取あり(使者を以届書差出可申事)。	

分類番号	資料名	差出人	宛先	年・月・日	注記	備考
94	御旅中 ^方 御疝積氣二付書中御機嫌伺御勤兼候儀伺書	津輕大隅守(順承) 家来 徳永主計	御用番 土井大炊頭(利位)	天保十一庚子年(1840) 六月廿一日	…疝積氣今以相勝不申候万一暑中之内參上仕兼候節者如何相心得可申候哉…。御書取あり(暑中出勤仕兼候ハ>以使者御機嫌相伺候様可仕候事)。	TK387-250 病後之御礼献上物御伺書並御附礼
95	参府延引着之儀御内意伺書	津輕大隅守(順承) 家来 工藤昇蔵	御用番 真田信濃守(幸貫)	天保十三壬寅年(1842) 四月七日	…南部信濃守(利濟)様御願之上二月御暇被仰出候付…大隅守儀当年者不拘交替四月中参府仕候様…当月中二者着府ニ相成可申儀と奉存候随而者別段延着之段御届不被申上候而不苦御座候哉…。御書取あり(書面之趣ニ候得者別段延着之旨届差出候二不及候事)。	
96	津輕武之助殿御血縁之御由緒ヲ以御願之義二付近衛様 ^方 之御書之写	近衛家	津輕大隅守(順承)	天保十三壬寅年(1842) 十月	…十月御系譜御書継ニ付大道寺族之助殿上京之砌津輕武之助殿御血縁之儀有之ニ付其段御願ニ付而近衛様 ^方 之御書…。包紙に「御秘事也」。	
97	馬喰町御貸付金弁捐被仰出候後同所江初而卷万両御拝借之儀御願書	津輕大隅守(順承) 家来 比良野文蔵		天保十四癸卯年(1843) 十月	…此度格段之厚以御仁恵馬喰町御用屋敷拝借金半高弁捐被仰付重難有仕合奉存候右上納金并去亥年拝借仕候分共大金之儀…御貸附方御用金之内金卷万両拝借被仰付被下置度奉願候左候ハ>右拝借金之内を以当年分上納仕度奉存候…勝手方役人共一同奉願候。御付紙あり(書面拝借金を以納方之義者難相整候年割通納有之改而拝借可被申立候)。	TK215-85 馬喰町御貸附金年延之儀願書并書付
98	中將 ^方 四品迄死去卒去唱司之儀御問合書	津輕大隅守(順承) 家来 皆川東馬	目付 松平式部少輔	天保十四癸卯年(1843) 十一月廿一日	中將少將侍從四品之方々右死去を卒去と唱候様相心得罷在候右ニ而相違無御座候哉…。御付紙あり(書面之通者卒と相唱候方と存候乍然公邊江者死と相唱可然存候)。	
99	御供連御減少御伺書	津輕大隅守(順承)	御用番 阿部伊勢守(正弘)	天保十四癸卯年(1843) 十二月廿日	御付紙あり(承置候)。天保10年家督相統以来5ヵ年を減少してきたが、更に5ヵ年の間、駕籠脇士10人のうち4人などを減らしたい。	
100	綱君様御入興御手続			天保十五甲辰年(1844)か	綱君：鷹司閔白政熙の妹、近衛内府忠熙の養女、松平陸奥守の養子松平筑前守穰三郎(のち陸奥守慶邦)へ縁組。記載は天保8～15年。	
101	順承公参府之節日光山江御参拝伺書/家来伺書	津輕大隅守(順承) /津輕大隅守家来 比良野文蔵	御用番 牧野備前守(忠雅)	天保十五甲辰年(1844) 正月十一日/ 二月五日	御付紙あり(可為何之通候)。御礼勤伺書(比良野文蔵)御付紙あり(飛札差越候様可仕候)	
102	湯之沢銀山稼方手当御前貸上納ノ儀二付願書	津輕大隅守(順承) 家来 比良野文蔵	勝手懸御老中 土井大炊頭(利位)	天保十五甲辰年(1844) 二月廿日	天保6年～11年までの拝借金18,000両のうち、4,000両は返却したが、残金14,000両を年700両ずつの返納を願う。御書取あり(書面御前貸去卯年迄ニ不納之分卷万両一時二相納)	

分類番号	資料名	差出人	宛先	年・月・日	注記	備考
103	三ツ目通り御中屋敷北東角 御相對替二付奉書		津輕大隅守 (順承)	天保十五甲辰年 (1844) 五月二三日	250坪余 (山内数馬押領屋敷本所三之橋通), 200坪余 (久保平三郎押領屋敷同所), 50坪余 (金子小右衛門押領屋敷同所) を順承へ。	
104	斎藤源八郎遠島二付差控伺 書/家来伺書	津輕大隅守 (順承) /津輕大隅守家来 安藤虎太郎	大目付 神尾備中守 (元孝)	天保十五甲辰年 (1844) 十月二八日	斎藤甚五兵衛の二男。通用難相成金子と召心 付遣捨候段不届。家来の不始末により、順承 が差控を伺うべきかを問い合わせる。御書取 あり (差控伺書差出候二不及候事) / 御付紙 あり (書面之通ハ差控被相伺候方と存候)	
105	武鑑校正刷り	須原屋茂兵衛	津輕家	弘化元甲辰年 (1844) 十二月	津輕順承代。従来、系図・鍵の並べ方・役・居 所等に書き落とし等があるので、御例役小野 軍次郎に改正させ、彫刻板行して差し出した。 / 須原屋茂兵衛は江戸最大の書物問屋。武鑑 類の板権を握っていた。	刊本
106	四品之御礼被仰上候節伺書 5通	津輕大隅守 (順承) /津輕大隅守家来 安 藤虎太郎		弘化元甲辰年 (1844) 十二月十八日	差上物之儀/御足袋伺/御礼順, 席順	
107	上使御奏者番被成下旨二付 御礼勤伺書	津輕大隅守 (順承) 御家来 北川六左衛門		弘化二乙巳年 (1845) 二月七日	御書取あり (月番之老中山城守江使者差出 候様)。山城守は戸田忠温, 西丸老中。	
108	覚 御老衆其外江御行達之 節打揚御簾上ケ方之儀二付	津輕大隅守 (順承) 家来 北川六左衛門		弘化二乙巳年 (1845) 二月十二日	御老中若年寄其外江於途中行達候節会釈振之 儀二付	
109	大隅守四品口宣頂戴御使者 帰着之儀伺書	津輕大隅守 (順承) 様御家来 北川六左衛 門	御用番 阿部伊勢守 (正弘)	弘化二乙巳年 (1845) 二月廿五日	大隅守御頭痛二付口宣被成御頂戴兼候儀。御 書取あり (書面之通相心得不苦候事)。	
110	御目録/御口上書 写しと も	近衛家	津輕家	弘化二乙巳年 (1845) 三月四日	順承前年の冬に四品に叙せられ, 近衛様御召 しの御袍, 御単御拝領	
111	当御下向之節日光山御宮御 靈屋御参拝被遊度段二付伺 書	津輕大隅守 (順承)	御用番 青山下野守 (忠良)	弘化二乙巳年 (1845) 三月六日	私儀先達而日光山御宮御靈屋参拝之儀奉伺候 処…。御付紙あり (可為何之通候)	
112	御足袋御伺書	津輕大隅守 (順承) 家来 安藤虎太郎	御用番 青山下野守 (忠良)	弘化二乙巳年 (1845) 三月十八日	日光山御参拝之節御足袋御用被遊度段。御付 紙あり (足袋用可被申候)	
113	参府延着之儀二付伺書	津輕越中守 (順承) 家来 比良野文蔵	御用番 牧野備前守 (忠雅)	弘化三丙午年 (1846) 四月二四日	御書取あり (延着届差出二不及候事)	

分類番号	資料名	差出人	宛先	年・月・日	注記	備考
114	御忌服問合	津軽越中守(順承) 家来 北川六左衛門	目付 松平式部少輔	弘化三丙午年 (1846) 六月二十八日	順承の養父・養母等の関係の忌服請方を問い合わせる。御付紙あり(書面之通二而候)。忌服は、親族らの死に当たって、一定の期間服喪する制度。	
115	近衛様御系譜	近衛家	津軽家	弘化三丙午年 (1846) 七月十七日到着	4月中旬問合せしたもの。尚通～忠熙。尚嗣からは兄弟・子女も記載。逝去年月日・葬地・法号・俗称・官位等を問い合わせた。	
116	満天姫君様御事業縦院様久松家御統書入			弘化三丙午年 (1846) 八月十五日	葉縦院は満天姫のこと。満天姫の父・松平康元～松平佐渡守良昌。小野軍次郎書蔵写。	
117	婿養子御内意伺書	津軽越中守(順承) 家来 比良野文蔵	御用番 牧野備前守 (忠雅)	弘化三丙午年 (1846) 十一月十一日	津軽越中守(順承)47歳、武之助(のち承祐)11歳。越中守娘へ婿養子奉願度。御書取あり(書面之趣存寄無之候事)	
118	婿養子願内意伺	津軽越中守(順承) 家来 比良野文蔵		弘化三丙午年 (1846)か、 十一月十一日	仮養子の津軽武之助を婿養子に願う内意伺い。	
119	婿養子願書	津軽越中守(順承)	阿部伊勢守(正弘) 牧野備前守(忠雅) 青山下野守(忠良) 戸田山城守(忠温)	弘化三丙午年 (1846) 十一月廿一日	花押/黒印あり。	
120	御礼勤伺書	津軽越中守(順承) 家来 安藤虎太郎	阿部伊勢守(正弘)	弘化四丁未年 (1847) 二月十四日	分知出雲守(黒石藩10代承保)当四月中参府の件、海岸御固向之儀二付、少し延期を願い許されたことへの御礼勤。御付紙あり(月番老中和泉守江使者差出候様可仕候)。和泉守は松平乗全、西丸老中。	
121	津軽出雲守系図	津軽出雲守(承保)	大目付 堀伊豆守 (利堅)	嘉永二己酉年 (1849)		
122	田安館江拘候一件	御右筆		嘉永二己酉年 (1849)より	不許他見。慶応元丙寅年(1865)3月までの記載	
123	御府内御供連之儀二付届書	津軽越中守(順承) 三月廿五日		嘉永二己酉年 (1849) 和泉守様(西丸老中・松平乗全)御呼出二付御留守居田井静馬罷出候受取申候	辰年より申年迄五ヵ年之内相減召連候段…旧臘結構被仰付候間…御付紙あり(承置候)/御府内御供連御道具之儀御触達二付同十月御書上並弘化三午年九月右元濟之儀御尋二付嘉永元申年十二月御答之扣	TK209-12 天保十五辰年五月

分類番号	資料名	差出人	宛先	年・月・日	注記	備考
124	御系図之寫	津輕越中守(順承)		嘉永三庚戌年 (1850)		桐箱入り
125	於御城御能御見物之節御席分一件	津輕越中守(順承) 家来 北川六左衛門	大目付	嘉永三庚戌年 (1850) 四月	絵図面, 切紙写。御能之節見物席混雜之義茂有之候間大広間二之間江押鉄差出置席分候様。	
126	蹴鞠為門弟荒組冠懸之事	雅光	弘前侍從(順承)	嘉永三庚戌年 (1850) 十 二月十六日		TK783-1 蹴鞠色目次第
127	目録/御口上書	近衛殿御使 中川讚岐 守	津輕越中守(順承)	嘉永四辛亥年 (1851) 二月九日	大道寺族之助 御庶子之義二付上京の節, 御内願の猪熊関白家實公御物慶賀笏写一箱について	TK288-26 近衛様江御庶子之儀御願一件, TK288-28 武之助様御統調扣
128	御口上書	近衛殿御使 中川讚岐 守	津輕越中守(順承)	嘉永四辛亥年 (1851) 二月九日	御系図被書出義二付, 旧冬大道寺族之助上京。永世金六十両年々御助勢	TK288-26 近衛様江御庶子之儀御願一件
129	覚 近衛様御代々御実名仮名附	近衛家	津輕家	嘉永四辛亥年 (1851) 二月十三日	嘉永三庚戌年大道寺族之助使者として上京之御問合せ, 翌年二月到来。藤原不比等~近衛忠熙	
130	銅瓦二而屋根葺替候儀伺書	津輕越中守(順承) 家来 北川六左衛門	目付 戸川中務少輔	嘉永五壬子年 (1852) 閏二月二十日	御付紙あり(書面之通者御定者無之候得共花美成儀ハ遠慮致し候方と存候)	
131	忌服請御問合書付	津輕越中守(順承) 家来 小田切平次	大目付 深谷遠江守 (盛房)	嘉永五壬子年 (1852) 三月一九日	養子ニ而実方之伯叔父母養家之家来筋二候而茂定式半減之忌服請候哉。御付紙あり(書面之通二而候)	TK386-90 御忌服
132	朱塗溜塗之御杖御用之儀	津輕越中守(順承) 家来 小田切平次	大目付 深谷遠江守 (盛房)	嘉永五壬子年 (1852) 三月廿一日	越中守持病の腰痛二付城内杖相用度。御付紙あり(書面塗杖之儀御定等無之候)。深谷遠江守家来よりの切紙添え	
133	諸席打込順	(津輕家)	小人目付	嘉永五壬子年 (1852) 八月	小人目付問合之節	
134	覚 御持鎗之儀問合	津輕越中守(順承) 家来 比良野助太郎		嘉永五壬子年 (1852) 九月	持鎗之儀柄千段巻青貝両様鞆黒鳥毛相用候	
135	覚 誓紙包み紙折り方	津輕武之助(承祐)		嘉永六癸丑年 (1853) 十月	折朱引之通り。誓紙反故。	

分類番号	資料名	差出人	宛先	年・月・日	注記	備考	
136	御請	津輕越中守 (順承)		嘉永六癸丑年 (1853) 十月十日	長崎表江渡来之魯西亜国との書翰和解写二冊為心得御渡被成下奉得其意候。7月に入港したロシア使節プチャーチンが国書受理を要求し、8月長崎奉行が受理。	TK319-1 魯西亜書牘和解	
137	阿蘭陀別段風説書御渡一件	津輕越中守 (順承)	阿部伊勢守 (正弘)	安政元甲寅年 (1854) 八月十六日	当秋阿蘭陀船より差出候別段風説書和解二冊為心得御渡被成下…。御書取あり (…差進候間為心得見置候様可被致候事)。順承は老中阿部伊勢守からの封書を参勤途上の秋田藩領大久保駅で受け取った。		
138	若殿様花押			安政二乙卯年 (1855) か	若殿様は津輕承祐 (有孝院様)		
139	内裏炎上二付為伺御機嫌御伝献之御口状之写	近衛殿御使 正	佐竹西市	津輕越中守 (順承か)	安政二乙卯年 (1855) か 正月十二日	禁裡様(天皇)へ御花生、御花臺、生鯛を御献上。安政元年(1854)4月の御所炎上に対するものか。	
140	口上書	近衛家使者 磨守	北小路播磨守	津輕越中守 (順承)	安政二乙卯年 (1855) 七月十一日	安政元年冬、大坂近海異国船渡来之砌当時仮皇居御近隣之儀尚更御心配被成候付、近衛家御警備…。その御礼の挨拶として、近衛家が越中守(順承)・出羽守(信順か)・大隅守(承祐)に粕漬鮑等を贈った。その目録3通。安政元年9月に、ロシアのプチャーチンが大坂湾に入り10月に退去した。	
141	細川越中守様御四男寛五郎様御婿養子真請二付近衛様よりの御返答書	近衛家		津輕越中守 (順承)	安政三丙辰年 (1856) 八月	寛五郎殿御儀当時細川越中守殿御國許ニ御住居ニ付追而御出府之上御願書被成御差出度御心組之段…御承知候。	
142	婿養子願書 4通	津輕越中守 (順承)	堀田備中守 (正篤) 阿部伊勢守 (正弘) 牧野備前守 (忠雅) 久世大和守 (廣周) 内藤紀伊守 (信親)	安政四丁巳年 (1857) 四月五日	養子大隅守(承祐)は安政2年(1855)7月没。翌3年8月、細川越中守四男 長岡寛五郎を養子と決定。	TK289-448 長岡寛五郎儀婿養子被仰付度儀内意伺并願書写	
143	統書 扣とも2通	津輕越中守 (順承)	御用番 久世大和守 (廣周)	安政四丁巳年 (1857) 四月五日	御婿養子御願書御進達之節御差添御先手松崎権左衛門殿を以御進達之御統書。細川越中守四男長岡寛五郎を婿養子に願う。		
144	滞府養生願索文 2通	御名 順承代		安政四丁巳年 (1857) か、 八月	名代 分知本次郎(黒石藩11代承叙)駿府加番		
145	滞府養生願	津輕越中守 (順承) 家来	若年寄 本庄安藝守 (道貫)	安政四丁巳年 (1857) 八月	当三月御暇後御不快ニ付秋中迄御滞府御願濟之処、今ニ馳と不被遊候ニ付、来年御参勤之御時節迄御滞府被遊度儀。御付紙あり(当冬中迄と御内意相伺候方可然)。	TK322.5-191 病氣ニ付滞府養生仕度内意伺書	

分類番号	資料名	差出人	宛先	年・月・日	注記	備考
146	細川家御系譜	細川家	津軽家	安政五戊午年 (1858) 六月十三日	細川藤孝-忠興-忠利(肥後国・熊本藩初代) ……斉樹(9代)-斉護(10代)。斉護が寛五郎 (後の承烈→承昭)の父。	TK288-29, 30 承烈公御統并細川 様御統并御両敬
147	隠居願書	津軽越中守(順承)	太田備後守(資始) 間部下総守(詮勝) 松平和泉守(乗全) 内藤紀伊守(信親) 脇坂中務大輔(安宅)	安政六己未年 (1859) 二月	控え3通, 花押/黒印2通。多紀安琢の治療 願書添付。世子土佐守は同年2月7日家督相 続。	TK289-452 津軽越中守隠居願 書案
148	申文控		津軽承烈(順承)	元治元甲子年 (1864) 十二月十八日	申 少将。藤原承烈25歳	
149	明光院殿御銅牌				明光院は常姫。津軽順承女, 承祐室(未婚), 承昭室。文久元年(1861)7月10日没。	TK289-508 御前様逝去一件
150	津軽承烈履歴覚え				天保11年8月12日の誕生から, 安政5年3月 3日 五節句始而御登城までの記事	
151	辨事御書付	辨事	津軽少将(承昭)	五月廿九日/ 六月	御用状。2通	
152	御持鎗式本惣青貝柄為御持 度儀御聞置書	津軽土佐守(承烈) 家来 御留守居助 坂巻久雄	大目付 遠山隼人正 (則訓)	安政六己未年 (1859) 二 月廿一日	土佐守家ニ而嫡子持鎗之儀式本共惣青貝柄又 者当主同様式本共惣千段巻柄両様之内…今般 家督被仰付候付初而御逢之節と青貝柄の方其 儘為持申候此段御聞置可被下候。御付紙あり (書面之趣承置候)	TK387-15 若殿様御持鎗御先 格茂有之候二付惣 青貝柄為御持一件
153	御引渡目録帳	濱町御右筆		文久三癸亥年 (1863) 二月	御奉書93封, 近衛様御書103封ほか。御付紙あ り, 慶応元年(1865)の付紙もあり。	TK526-27 御譲請浜町御殿御 有形御絵図
154	女房御奉書	御所 大すけ, 長橋	弘前侍従(承昭)	元治元甲子年 (1864) 四月	黄金拵正宗太刀献上披露。「…弘前侍従より 正宗の御短刀けん上のよし御傳献おはしまし ひろう申候…」。	津軽承昭公伝 P33
155	傳奏野宮殿方御沙汰書	傳奏野宮	弘前侍従(承昭)	元治元甲子年 (1864) 四月	黄金拵正宗太刀献上	津軽承昭公伝 P32
156	近衛忠熙 書簡	近衛忠熙	弘前侍従(承昭)	元治元甲子年 (1864) 四月	黄金拵正宗太刀献上。近衛忠熙は近衛家第26 代当主。	津軽承昭公伝 P33
157	御系譜原紙			慶応二丙寅年 (1866) 六月	慶応2年が3枚。別1枚は「此堺紙横廣二付 ふ用之事」	

津軽家文書

分類番号	資料名	差出人	宛先	年・月・日	注記	備考
158	御所より御渡御書付／御遠書	御所	津軽越中守（承昭）	慶応四戊辰年 （1868） 6月19日		津軽承昭公伝 P113
159	版籍奉還御聞届	行政官	津軽少将（承昭）	明治2年 （1869） 6月		
160	一萬石永世御賞典御朱璽	大政官	津軽少将（承昭）	明治2年 （1869） 6月		
161	藩知事任状御朱璽	大政官	津軽少将（承昭）	明治2年 （1869） 6月24日	弘前藩知事辞令。「津軽少将 弘前藩知事被仰付候事」。	TK289-108 弘前藩知事辞令写
162	一萬石三年間御賞典御朱璽	大政官	津軽少将（承昭）	明治2年 （1869） 9月		
163	文書目録			明治9年 （1876） 11月27日	津軽承昭公関係の明治文書入の内容について。現在、宸翰／御太刀献上御沙汰書はない。	
164	正四位御宣下一件	大政官書記官ほか	津軽承昭	明治10年 （1877） 12月3日		
165	麝香間祇候御拜命一件	大政官書記官ほか	津軽承昭	明治11年 （1878） 6月20日		
166	献上短刀之義二付一件	侍従 富小路	津軽承昭	明治12年 （1879）	正宗太刀献上	
167	従三位御宣下御辞令	内閣	津軽承昭	明治19年 （1886） 10月15日	伊藤博文	
168	憲法発布式記念章授与証	内閣か	津軽承昭	明治22年 （1889） 11月30日		
169	正三位御宣下御辞令	宮内省	津軽承昭	明治25年 （1892） 7月5日		
170	従二位御宣下御辞令	宮内省	津軽承昭	明治31年	6月20日 参内	

分類番号	資料名	差出人	宛先	年・月・日	注記	備考
				(1898) 6月18日		
171	正二位御宣下御辞令	宮内省	津軽承昭	明治43年 (1910) 8月20日		
172	礼状	東京帝国大学史料編纂 官 三上参次	津軽承昭	大正3年 (1914) 12月11日	津軽家文書の調査お礼。三上参次は『江戸時代史』の著者として有名な歴史学者。	
173	従一位御階叙御辞令	宮内省	弘前侍従(承昭)	大正5年 (1916) 7月19日	宣旨とも	
174	覚 津軽著教履歴				津軽著教は5代藩主・信寿の子。享保6年(1721)～延享2年(1745)。	
175	病氣二付御暇之上使難請旨 御書取				病氣二付御暇之上使難請旨被申聞候趣承置候事ノ御用人鷹見十郎左衛門ヲ以御渡シ。	
176	戒名札				泰源院殿大中大夫前羽林中郎将兼越州大守仁岳宗寛大居士。	
177	上仙院様・信順公履歴抜書				上仙院は寧親のこと。	
178	持明院様御伝書入箱鍵				持明院流は室町時代末期断絶した世尊寺家に代わって、宮廷の書き役として君臨した持明院家代々の書流をいう。江戸時代に広く受け入れられていた。	
179	御系図目録				津軽系図目録。系図御箱裏書：近衛前久(16代)・信尋(18代)・基熙(20代)と記載あり。	
180	御明細書				津軽(寧親)(信順)(順徳)(順承)(承祐)(承烈)(承昭)	TK289-457 津軽越中守(信順) 御明細書
181	系譜抄出				津軽信著～寧親代	
182	御系秘録 天地人				御系譜は藤原秀栄～津軽武之助藤原承祐まで記載	桐箱入り3冊
183	御親族方御系譜 二二冊				書入相済候部。	23冊
184	御親族方御系譜 二二冊				近衛家/松平久松家/御分家/土井家/今大路家/増山家/松平小幡家/那須家/堀飯田家/醍醐家/保科家/岩城家/有馬久留米家	23冊

分類番号	資料名	差出人	宛先	年・月・日	注記	備考
					／脇坂家／松平結城家／仙石家／阿部家／杉浦家／堀村松家／田安家／松平長沢家／有馬吹上家／細川家	
185	信寧公以後 御系譜 六冊				卷之八 信寧／卷之九 信明公／卷之十 寧親公／卷之十一 信順公／卷之十二 順承公／卷之十三 承祐公	
186	信寧公以後 御系譜 六冊				卷之八 信寧／卷之九 信明公／卷之十 寧親公／卷之十一 信順公／卷之十二 順承公／武之助様／卷之十四 承昭公	
187	御公義御書付御ケ条之部 御書物書拔	御右筆			從御公義被仰出候諸家御系譜御書出之儀ほか	
188	凡例				系譜書き上げの際の凡例	
189	御系譜御書直についての内 状	津輕家		二月六日	先年添田殿御上京之初御書繼二相成候御系譜ノ内式ケ条斗御認違御座候様奉存候…御認違之ケ所并今度御書改振之御案文共と得御評義之上右様御書取早便を以被仰下候様可申遣旨…／丑三月二日立飛脚ニ而此返事遣候 十五日達	
190	近衛家より御口状	近衛殿御使 立野勇	津輕越中守	後五月	御在所江之御暇被下後御疝痢且御痔疾ニ付御発駕御延引之段…御願之通被仰出候。	
191	大納言様江初而御目見之節 之御礼勤方之儀伺書	中川修理太夫 家来 大竹傳右衛門		八月八日	初而御目見申上候節為御礼西御丸江登城并御老中様方江御礼勤之儀…。御付紙あり（為御礼西丸江登城且御老中方對馬守殿江御礼相越候儀二而候）。中川修理太夫は、豊後国岡城主、7万石、柳間詰め。	

旧八木橋文書

分類番号	資料名	内 容	差 出 人	宛 先	年・月・日	注 記
1	御用状	改名許可	津軽内膳	村上传次郎	3月20日	願の通り利右衛門と名改めを認められる。
2	御用状(剪紙)	改名願(利右衛門または宗内に)の許可	津軽内膳	村上传次郎	3月20日	裏書:利右衛門と改名
3	先祖書	村上利右衛門先祖書				
4	由緒書	宗内英則(村上利右衛門)由緒書				7代村上利右衛門認む。折本,表紙欠落。
5	御用状(剪紙)	御用につき登城の連絡	大谷津七郎	村上宗内	安永3年(1774) 7月10日	裏書:下向時,碓ヶ関着の日雷雨のため川洪水の際の出情に対し賞金
6	御用状(剪紙)	宗内と改名願,許可の連絡	北原武左衛門	村上理右衛門	8月6日	
7	御用状(剪紙)	御用につき登城の申し付け	西館織部,大道寺準人,工藤伝兵衛,高屋半左衛門,牧野左次郎	村上宗内	寛政3年(1791) 4月晦日	包紙裏書:寛政3亥年5月朔日,御手廻三番組被仰付候御切紙。上包あり
8	御用状(剪紙)	御用につき登城の申し付け	津軽外記,牧野左次郎,松浦甚五左衛門,森岡金吾,津軽重蔵,桜庭半兵衛,津軽中書	村上宗内	寛政6年(1794) 9月14日	上包裏書:寛政六甲寅年九月十五日今別町奉行御役替被仰付候
9	御用状(剪紙)	知行書出下付につき登城の申し付け	松浦甚五左衛門	村上宗内	文化10年(1813) か, 閏11月11日	上包あり
10	御用状(剪紙)	御用につき登城の申し付け	野呂 登	村上利右衛門	寛政12年(1800) 12月14日	裏書:寛政十三酉年,御目付ニ而江戸表江御参府御供登被仰付候御切紙/野呂 登:寛政頃の人,津軽藩校稽古館創設関係者。儒者,書家。竹内長左衛門二子。
11	御用状(剪紙)	御用につき登城の申し付け	工藤伝兵衛,毛内有右衛門,對馬刑部,竹内又市	村上利右衛門	2月27日	上包あり/YK288-289家傳記(村上利右衛門家)
12	御用状(剪紙)	三厩詰のため,出立の連絡について	工藤伝兵衛	村上利右衛門	3月1日	
13	御用状(剪紙)	子(3男周次郎),門弟世話役の申し付け	山野主馬	村上利右衛門	3月14日	

分類番号	資料名	内 容	差 出 人	宛 先	年・月・日	注 記
14	御用状 (剪紙)	子 (3男周次郎), 門弟取扱の申し付け	山野主馬	村上利右衛門	3月17日	
15	御用状 (剪紙)	御用につき登城の申し付け	毛内有右衛門, 對馬刑部, 本多東作, 竹内又市	村上利右衛門	3月晦日	上包あり
16	御用状 (剪紙)	知行書出下付につき登城の申し付け	工藤伝兵衛	村上利右衛門	11月26日	上包あり
17	御用状 (剪紙)	御用につき登城の申し付け	西館宇膳, 進藤太郎左衛門, 藤田莊助	村上文弥	文政9年(1826)8月26日	上包あり / YK288-166 由緒書 (村上文弥家)
18	御用状 (剪紙)	御用につき登城の申し付け (御馬廻一番組番頭へ役替)	堀五郎左衛門, 間宮求馬, 大道寺隼人, 添田儀左衛門, 津軽重蔵, 山鹿次郎作, 都谷森甚之丞, 野呂典司	村上文弥	文政12年(1829)5月14日	上包あり
19	御用状 (剪紙)	二男貞吉嫡子願に対する許可	大道寺隼人	村上文弥	文政12年(1829)9月朔日	
20	御用状 (剪紙)	妻女, 里元へ引取願許可の申し入れ	津軽出雲	村上文弥	9月7日	
21	御用状 (剪紙)	知行書出下付につき登城の申し付け	棟方十左衛門	村上文弥	12月11日	上包あり
22	御用状 (剪紙)	知行書下付につき登城の申し付け	竹内源太夫	竹内長左衛門	寛政6年(1794)か, 閏11月15日	竹内長左衛門は, 寛政3年郡奉行手伝, 寛政改革7人衆の1人
23	履歴書	竹内長左衛門履歴				寛延3年正月元日より文化6年10月14日迄。年代記も含めている。竹内長左衛門(百石)は寛政改革7人衆の1人。巻紙。
24	御用状 (剪紙)	素置雲に絵図作成を申し付ける件	森岡金吾	菊池寛司, 竹内長左衛門	寛政6年(1794)か, 閏11月21日	菊池寛治は, 寛政3年郡奉行, 勘定奉行職, 寛政律の編集に寄与する。
25	御用状 (剪紙)	絵図手渡しにつき, 城詰合と大風呂敷用意すべき旨の連絡	森岡金吾	竹内長左衛門	閏11月8日	
26	御用状 (剪紙)	樋口村へ転住につき, 家作のため知行米渡方願に対する許可	森岡金吾	竹内長左衛門	2月7日	
27	御用状 (剪紙)	謡初につき登城の連絡	須藤五郎太夫	竹内長左衛門	文化5年(1808)正月2日	上包あり

分類番号	資料名	内 容	差 出 人	宛 先	年・月・日	注 記
28	御用状 (剪紙)	祝儀の酒肴・能見物申し付けられるにつき、登城の連絡	喜多村監物	竹内長左衛門	6月2日	上包あり
29	御用状 (剪紙)	家督相続の許可	岡 文左衛門	竹内長左衛門	9月朔日	
30	御用状 (剪紙)	御用につき登城の連絡	牧野左次郎	竹内長左衛門	寅6月22日	貼付付紙
31	御用状 (剪紙)	縁組許可についての連絡	牧野左次郎	竹内長左衛門	9月7日	
32	御用状 (剪紙)	知行書出交付につき登城の連絡	成田栄吉	竹内長左衛門	11月27日	
33	御用状 (剪紙)	御用につき登城の申し付け	西館宇膳, 本多東作, 佐野茂助, 釜薙多門	五十嵐所吉	文久3年(1863)正月14日	上包あり / 上包裏書: 青森湊詰合之節, 文久三癸亥年正月十四日到来同廿六日御馬廻番頭格被仰付武芸締方取扱被仰付候, 但講武所懸合 / YK288-109-2 覚書 (五十嵐貞陸家)
34	御用状 (剪紙)	京都守衛のため, 下命の面々へ出立の連絡方について	楠美荘司	五十嵐所吉	文久3年(1863)6月28日	五十嵐家の系譜: 五十嵐又七-忠右衛門-兵太郎(貞彬)-屯蔵-所吉(処吉)-理門...。勝蔵は兵太郎の兄弟。兵之助, 直蔵は屯蔵の兄弟 / YK288-257 五十嵐家代々覚書, YK288-179-イ親類書 (五十嵐所吉家) ほか
35	御用状 (剪紙)	禁裏守衛につき上りの面々御目見のため, 横川御殿へ詰め合う旨の一統への連絡方について	楠美荘司	五十嵐所吉	文久3年(1863)6月28日	YK215-48 此度為御守衛上京被仰付二付伺書并御済口留
36	御用状 (剪紙)	稽古初時刻確認の連絡	武芸締方	五十嵐所吉	1月15日	
37	御用状 (剪紙)	修武堂稽古初確認の連絡	武芸締方	五十嵐所吉	1月16日	
38	御用状 (剪紙)	奇兵隊, 番組隊より命ぜられるについての連絡	武芸調方	浅利万之助, 五十嵐所吉	8月24日	浅利万之助: 当田流剣術師範。明治元年維新戦争のとき小隊長として各地に活躍した。
39	御用状 (剪紙)	奇兵隊組, 御中小性格合下命に関するの連絡	武芸調方	浅利万之助, 五十嵐所吉	8月24日	
40	御用状 (剪紙)	奇兵隊松前詰合い御免願いは隊頭含み違いのこと	武芸調方	浅利万之助, 五十嵐所吉	11月7日	

分類番号	資料名	内 容	差出人	宛 先	年・月・日	注 記
41	御用状(剪紙)	非常につき、奇兵隊手当や甲冑その他の借用等に関する返書	武芸調方	浅利万之助、五十嵐所吉	11月晦日	
42	御用状(剪紙)	江戸近海に異国船渡来のため、大筒方下命につき、心積りの申し付け	本多東作	五十嵐所吉	6月9日	
43	御用状(剪紙)	近衛様警衛の面々、髪斗目拝借について	山野主馬	五十嵐所吉	元治2年(1865)か、2月10日	山野主馬：文政6年～明治15年(1823～1882)。茂樹、名は元敏。津軽藩士で藩校稽古館第9代並びに第11代総司。戊辰戦争時功労が多かった。
44	御用状(剪紙)	江戸詰交代の申し付け(計7人)	山野主馬	五十嵐所吉	2月14日	
45	御用状(剪紙)	桜木御殿警衛の処、忌御免の申し付け	山野主馬	五十嵐所吉	2月15日	
46	御用状(剪紙)	御用につき登城の申し付け	山野茂樹	五十嵐所吉	12月25日	
47	御用状(剪紙)	会津侯参内に関連し、警固のため御殿へ急きよ詰め合いの申し付け	西館平馬	五十嵐所吉	6月27日	GK215-130〔西館平馬書状・風説〕
48	御用状(剪紙)	京都守衛詰合中の福田兵九郎、腫物難治のため下向許可と、小人1人拝借願許可の連絡	西館平馬	五十嵐所吉	10月5日	
49	御用状(剪紙)	御目見のため、本陣へ詰め入りの申し付け	杉山八兵衛	五十嵐所吉	1月14日	
50	御用状(剪紙)	御用につき登城の申し付け	竹内源太夫	石岡伝七	寛政12年(1800)12月14日	
51	御用状(剪紙)	悴亀吉御目見につき、登城申し付けの連絡	笠原兵司	石岡伝七	寛政13年(1801)1月晦日	裏書：寛政13年2月1日被仰付候
52	御用状(剪紙)	石岡伝七次第の儀、都谷森甚之丞次順とする旨の申し付け	笠原兵司	石岡伝七	12月18日	
53	御用状(剪紙)	御用につき私宅へ詰合の申し付け	溝江伝左衛門	石岡源吾	文政11年(1828)2月1日	裏書：同二日被仰付候も同三日二番組支配被仰付候／石岡家の系図：伝七-伝左衛門(亀吉改め；伝左衛門ののち伝之丞)-源吾…。伝太郎は源吾と兄弟
54	御用状(剪紙)	唐午三左衛門宅へ詰合の申し付け	須藤左兵衛	石岡源吾	文政12年(1829)6月27日	
55	御用状(剪紙)	近江殿宅へ詰合の申し入れ	中村亀吉	石岡源吾	文政12年(1829)8月7日	

分類番号	資料名	内 容	差 出 人	宛 先	年・月・日	注 記
56	御用状(剪紙)	縁組許可の件	三番組 通用番	石岡伝八	天保2年(1831) 1月1日	
57	御用状(剪紙)	御用につき笠原近江宅へ詰合いの連絡	中村亀吉	石岡伝八	天保4年(1833) 11月21日	貼紙：御台所吟味役下命
58	御用状(剪紙)	御用につき役所詰め申し付け	佐藤平八郎	石岡伝八	天保5年(1834) 6月20日	裏書：御通行ニ付老歩仁朱
59	御用状(剪紙)	娘再縁許可の連絡	工藤彦市	石岡伝八	11月25日	
60	御用状(剪紙)	御用につき昇学(堂)の申し付け	黒瀧藤太	石岡伝太郎	嘉永2年(1849) 12月22日	裏書：嘉永二己酉年十二月廿二日到来、翌廿三日昇堂和学典句・典書・典筆加勢、殊ニ和学業事上達ニ付為御賞金三朱
61	御用状(剪紙)	学問所へ昇学の連絡	黒瀧藤太	石岡伝太郎	嘉永3年(1850) 4月24日	並半紙／裏書：嘉永三戌ノ年四月廿五日学問所江去ル廿二日上様被為入御試、上達ニ被思召候旨被仰渡、為御賞目録之通頂戴
62	御用状(剪紙)	典筆加勢申し付けられるについての連絡	書学士	石岡伝太郎	嘉永3年(1850) 8月晦日	
63	御用状(剪紙)	典筆加勢申し付けられるについての連絡	書学士	石岡伝太郎	嘉永4年(1851) 3月27日	裏書：嘉永四年到来翌廿八日より出勤
64	御用状(剪紙)	祝い事並びに能見物のため登城の申し付け	成田伝八、釜菴福次郎	石岡伝左衛門	嘉永5年(1852) 3月26日	
65	御用状(剪紙)	祝い事並びに能見物のため、悴伝太郎登城の申し付け	成田伝八、釜菴福次郎	石岡伝左衛門	嘉永5年(1852) 3月28日	
66	御用状(剪紙)	御用之儀につき昇学(堂)の申し付け	山崎豹次郎	石岡伝太郎	嘉永5年(1852) 12月22日	裏書：嘉永五子年、学問所料之内より武人扶持被下置、典筆被仰付候
67	御用状(剪紙)	御用につき昇学(堂)の申し付け	山崎豹次郎	石岡伝太郎	嘉永6年(1853) 12月22日	裏書：嘉永六丑とし、御賞老歩老束
68	御用状(剪紙)	御用につき昇学(堂)の申し付け	珍田祐之丞	石岡伝太郎	安政4年(1857) 12月22日	裏書：安政四丁巳年、金百疋、並半紙武束五帖

分類番号	資料名	内 容	差出人	宛 先	年・月・日	注 記
69	御用状 (剪紙)	和学教授加勢申し付けの連絡	赤松糸之助	石岡伝太郎	安政6年(1859) 11月17日	
70	御用状 (剪紙)	申談之儀あるにつき昇堂の連絡	珍田祐之丞	石岡伝太郎	文久2年(1862) 12月7日	裏書：文久二壬戌年，歌学出情，上達之旨被仰渡並半紙式束被下置
71	御用状 (剪紙)	御用につき昇堂の連絡	珍田祐之丞	石岡伝太郎	文久2年(1862) 12月22日	裏書：金百疋，並半紙壹束五帖，水筆宥对，文久二壬戌年十二月廿三日，典句実貞出情ニ相勤，殊ニ試上達之生多有之旨被仰渡
72	御用状 (剪紙)	図書同道登城申し付けられるについての連絡	上田与五郎	石岡伝太郎	文久3年(1863) 8月晦日	裏書：文久三癸亥年，親跡式被仰付候
73	御用状 (剪紙)	和学二教加勢任命と給禄についての連絡	小司	石岡伝太郎	文久3年(1863) 12月14日	
74	御用状 (剪紙)	主上崩御につき，学問所昇堂不要の連絡	小司	石岡伝太郎	慶応3年(1867) か，1月27日	孝明天皇は慶応2年12月25日崩御，葬儀が翌年1月23日
75	御用状 (剪紙)	和学典句勤仕の申し付けの連絡	和嶋伝之助	石岡伝太郎	3月12日	
76	御用状 (剪紙)	遠慮に及ばざる旨申し付けられるについての連絡	書学士	石岡伝太郎	3月18日	裏書：僧縁伯父京徳寺儀無調法之儀ニ付隠居被仰付候節
77	御用状 (剪紙)	入学許可者と不許可者についての申し入れ (返書)	赤松糸之助	石岡伝太郎	4月12日	
78	御用状 (剪紙)	急きょ出勤の連絡	学校司務	石岡伝太郎	5月4日	
79	御用状 (剪紙)	学問所での講釈方申し付けられるについての連絡	木村繁四郎	石岡伝太郎	5月20日	
80	御用状 (剪紙)	用件(薬王院詰より書物拝借)に付き，出勤の申し入れ	学校議事	石岡伝太郎	7月11日	
81	御用状 (剪紙)	湖月抄聴聞申し付けられるについての連絡	小司	石岡伝太郎	9月24日	
82	御用状 (剪紙)	笹森寅之助四季試みに出席申し付けられるについての連絡	楠美和民	石岡伝太郎	11月14日	
83	御用状 (剪紙)	御用につき昇堂の申し付け	神 東太郎	石岡伝太郎	12月22日	

分類番号	資料名	内 容	差 出 人	宛 先	年・月・日	注 記
84	御用状 (剪紙)	御用につき昇堂の申し付け	珍田祐之丞	石岡伝太郎	12月22日	
85	御用状 (剪紙)	御用につき昇学 (堂) の申し付け	山崎豹次郎	石岡伝太郎	12月22日	
86	御用状 (剪紙)	自宅へ詰め合いの連絡	土岐渡人	石岡亀吉	文化6年(1809) 11月1日	
87	御用状 (剪紙)	改名許可 (石岡伝左衛門と)	山田文作	石岡亀吉	文政6年(1823) 5月4日	附：2 伸
88	御用状 (剪紙)	宅へ詰め合いの申し入れ	山田文作	石岡伝左衛門	文政6年(1823) 5月29日	
89	御用状 (剪紙)	昇進祝につき、祝い事及び能見物のため登城の申し付け	岩川伊太夫	石岡伝左衛門	文政8年(1825) 6月24日	
90	御用状 (剪紙)	住居物書兼江戸交代登り申し付けられるについての連絡	廻間宇作	石岡伝左衛門	嘉永元年(1848) 4月8日	
91	御用状 (剪紙)	住居詰合交代登り出立日、願いの通り許可についての連絡	御広敷 御用達	石岡伝左衛門	嘉永元年(1848) 7月4日	
92	御用状 (剪紙)	交代登りの節、同道のため掃除小人拝借願不許可に関する件	御広敷 御用達	石岡伝左衛門	嘉永元年(1848) 7月12日	
93	御用状 (剪紙)	交代登りに付き、碓ヶ関口出切手紙交付の件	御広敷 御用達	石岡伝左衛門	嘉永元年(1848) 7月20日	追伸あり
94	御用状 (剪紙)	悴伝太郎登城申し付けられるについての連絡	七組通用番 花田七郎	石岡伝左衛門	安政5年(1858) 5月30日	裏書：御中小性組入り申し付け
95	御用状 (剪紙)	交代登り一人旅につき、御台所役出立に同道申し付けられるについての連絡	成田重左衛門	石岡伝左衛門	7月11日	
96	御用状 (剪紙)	悴源吾の縁組許可の連絡	山野主馬	石岡伝左衛門	8月29日	
97	御用状 (剪紙)	交代下り着につき、出立申し付けの連絡	三浦市太郎	石岡伝左衛門	9月8日	
98	御用状 (剪紙)	御老女ほか下女交代下りに付き、付き添い申し付けられるについての連絡	瓜田金蔵	石岡伝左衛門	9月9日	
99	御用状 (剪紙)	改名許可 (襲名一伝之丞)	溝江伝左衛門	石岡伝左衛門	9月10日	
100	御用状 (剪紙)	下女下り道中、同道申し付けられるについての連絡	成田三太夫	石岡伝左衛門	9月14日	
101	御用状 (剪紙)	金井ヶ沢大筒方及び湊目付別段締り役等兼務申し付けられるにつき、誓詞のため、登城すべき旨の連絡	今 治郎八	石岡伝左衛門	9月15日	

分類番号	資料名	内 容	差出人	宛 先	年・月・日	注 記
102	御用状 (剪紙)	松前スツヅ詰交代申し付けられるについての連絡	野呂此母	石岡伝左衛門	12月17日	
103	御用状 (剪紙)	御用につき役所詰め申し入れ	成田半左衛門	中畑屋忠三郎	文政8年(1825) 11月29日	付紙貼付
104	御用状 (剪紙)	御用につき勝手方詰め申し入れ	名主代 近江屋庄六	中畑屋忠三郎	文政11年(1828) 7月24日	付紙貼継
105	御用状 (剪紙)	麻上下にて登城申し付けられるにつき、その旨の申し入れ	松井健左衛門	中畑屋忠三郎	天保5年(1834) 1月23日	付紙貼付
106	御用状 (剪紙)	昇進祝宴と能見物申し付けられるにつき、その旨の申し入れ	御側方取扱役	中畑屋忠三郎	天保9年(1838) 5月10日	
107	御用状 (剪紙)	御用につき元方へ詰め合いの連絡	御元方小頭	中畑屋忠三郎	4月16日	
108	御用状 (剪紙)	質座家業続方ならず造酒家業を始めるための資金等調達に対する許可	松井助左衛門	中畑屋忠三郎	7月4日	
109	御用状 (剪紙)	御用につき登城の申し付け	笹森久兵衛	中畑屋忠三郎	7月6日	
110	御用状 (剪紙)	御用につき元方へ詰め合いの連絡	阿保善蔵	中畑屋忠三郎	8月2日	
111	御用状 (剪紙)	町奉行所へ詰め合いの申し付け	松山源三郎	中畑屋忠三郎	9月26日	
112	御用状 (剪紙)	御用につき役所詰め申し入れ	高嶋屋半左衛門	中畑屋忠三郎	天保4年(1833) 12月13日	付紙貼付
113	御用状 (剪紙)	御役所詰め入り申し付けられるにつき、その旨の連絡	高嶋屋半左衛門	中畑屋忠三郎	2月11日	
114	御用状 (剪紙)	昇進等の祝事につき、武者屯へ詰め合いの申し入れ	高嶋屋半左衛門	中畑屋忠三郎	6月25日	
115	御用状 (剪紙)	御用につき役所へ詰め合いの連絡；御用金上納并冥加金差上げにつき供養のこと	高島屋半左衛門	中畑屋忠三郎	(幕末)7月27日	2通貼り継ぎ
116	御用状 (剪紙)	御用につき登城の申し付け	成田半四郎	中畑屋忠三郎	天保5年(1834) 10月8日	付紙貼付
117	御用状 (剪紙)	御用につき登城の申し付け	成田半四郎	中畑屋忠三郎	2月11日	付紙貼付
118	御用状 (剪紙)	町奉行所へ詰め合いの申し渡し	松山彦左衛門	中畑屋忠三郎	天保8年(1837) 8月15日	付紙貼付

分類番号	資料名	内 容	差出人	宛 先	年・月・日	注 記
119	御用状 (剪紙)	御用につき登城申し付けられるについての連絡	松山彦左衛門	中畑屋忠三郎	3月22日	
120	御用状 (剪紙)	御用につき奉行所へ詰め合いの連絡	松山彦左衛門	中畑屋忠三郎	12月26日	
121	御用状 (剪紙)	昇進祝の能見物のため、登城申し付けられるにつき、その旨の申し入れ	松井四郎兵衛	中畑屋忠三郎	天保9年(1838) 5月10日	裏書：天保九戌戌年五月ノ御剪紙
122	御用状 (剪紙)	御用につき町奉行所へ詰め合いの申し入れ	松井四郎兵衛	中畑屋忠三郎	天保11年(1840) 6月28日	付紙貼付
123	御用状 (剪紙)	御用のため勝手方へ詰め合い申し付けられる旨の申し入れ	松井四郎兵衛	中畑屋忠三郎	8月19日	上包あり
124	御用状 (剪紙)	御用達下命につき、年頭・五節句御目見席出席についての申し入れ	松井四郎兵衛	中畑屋忠三郎, 藤田半左衛門	8月19日	
125	御用状 (剪紙)	勝手方へ詰め合いの申し付けあるにつき、その旨の連絡	松井四郎兵衛	中畑屋忠三郎	(幕末)12月3日	
126	御用状 (剪紙)	御用につき勝手方へ詰め合いの申し付け	太田惣吉	中畑屋忠三郎	天保15年(1844) 8月18日	付紙：此御剪紙ハ御上下頂戴也、天保十五甲辰八月十九日也
127	御用状 (剪紙)	御用につき勝手方へ詰め合いの申し付け	太田惣吉	中畑屋忠三郎	9月14日	
128	御用状 (剪紙)	弘前勘定所へ詰め合いの連絡	永野弥門	中畑屋忠三郎	12月25日	
129	御用状 (剪紙)	御用につき役所へ詰め合いの申し入れ	永野弥門	中畑屋忠三郎	9月3日	
130	御用状 (剪紙)	御用につき勝手方へ詰め合いの連絡	奈良荘左衛門	中畑屋忠三郎	12月19日	
131	御用状 (剪紙)	勝手方へ詰め合い申し付けられるについて、その旨の申し入れ	奈良荘左衛門	中畑屋忠三郎	12月24日	
132	御用状 (剪紙)	祝事につき祝頂戴と能見物のため、登城申し付けられるについての申し入れ	成田徳蔵	中畑屋忠三郎	3月21日	
133	御用状 (剪紙)	祝事につき能見物のため登城申し付けられる旨の申し入れ	成田徳蔵	中畑屋忠三郎	9月22日	
134	御用状 (剪紙)	御用につき勝手方詰めめの申し入れ	浅利七郎次	中畑屋忠三郎	6月27日	
135	御用状 (剪紙)	御用につき勝手方へ詰め合いの連絡	浅利七郎治	中畑屋忠三郎	12月9日	
136	覚	高年につき御賞の件		中畑忠三郎	9月27日	目録(金百疋)あり、半紙折・横

分類番号	資料名	内 容	差 出 人	宛 先	年・月・日	注 記
137	御用状 (剪紙)	土手町中畑屋忠三郎の上納金並びに貯米割付方御免願に対し、二段下げ納入申し渡しの件	松山彦左衛門	矢部又兵衛	4月11日	
138	御用状 (剪紙)	家蔵・質座家業譲渡願許可について	松山彦左衛門	矢部又兵衛, 芝田屋長右衛門	12月26日	
139	御用状 (剪紙)	巡見使下向につき、土手町中畑屋忠三郎悴忠吉への碓ヶ関宿手伝申し付け方について	松山彦左衛門	近江屋彦六	閏4月7日	
140	御用状 (剪紙)	御用につき登城の申し付け	土門八郎, 須藤半兵衛, 宇佐美平左衛門, 津軽頼母, 小山内武左衛門, 大道寺族之助, 津軽直記	竹内屯助	閏4月24日	
141	御用状 (剪紙)	高嶋屋半左衛門・中畑屋忠三郎へ十人扶持, 御用達申し付けられるにつき、勘定奉行所へ出頭の申し付け	土門八郎		6月28日	裏書：御用達被仰付候御用状
142	御用状 (剪紙)	中畑屋忠三郎・安田屋三之丞両名の町内割当金の引き上げ願に対する回答	松山善之丞	今泉万右衛門	7月9日	
143	御用状 (剪紙)	割当金半減上納願いに対し、是迄の割合より二段下げの申し付けについて	松井助左衛門	今泉万右衛門	12月18日	
144	御用状 (剪紙)	新町中畑屋英七の割当金当分免除許可について	松井龍太郎	今泉万右衛門	12月22日	
145	御用状 (剪紙)	浪岡組並郷士・手代兼大平忠三郎, 御用向出情, 借上米皆納につき、代々郷士・手代申し付け		大平忠三郎 (長右衛門)	亥正月24日	大平長右衛門 (忠三郎) : 高館村庄屋, 浪岡組並郷士・手代
146	御用状 (剪紙)	請書提出の連絡	詰合手代	大平長右衛門	2月16日	
147	御用状 (剪紙)	御用金の件	御代官	大平長右衛門	3月8日	
148	御用状 (剪紙)	御用につき直々役所へ詰め合いの申し入れ	代官	大平長右衛門, 庄屋弥七郎	4月12日	
149	御用状 (剪紙)	東北御蔵駄下米下し方の申し付け	御代官	大平長右衛門	5月17日	
150	御用状 (剪紙)	御蔵へ詰め合いの申し入れ	手代兼人	庄屋長右衛門	5月1日	
151	御用状 (剪紙)	代庄屋申し付け	代官	高館村 長右衛門	6月14日	
152	御用状 (剪紙)	御用につき宇膳宅並びに郡処へ出頭の申し入れ	郡所小頭	長右衛門事忠三郎	6月23日	

分類番号	資料名	内容	差出人	宛先	年・月・日	注記
153	御用状 (剪紙)	払金受取人の派遣方について	手代	大平長右衛門	11月10日	
154	御用状 (剪紙)	役所へ詰め合いの申し入れ	山崎半蔵, 藤田周蔵	大平長右衛門	2月16日	
155	御用状 (剪紙)	公儀役入通行につき, 道普請 (杉沢村一柳久保村) の監督方申し付けについて	対馬園太	大平長右衛門	3月4日	
156	御用状 (剪紙)	昇進祝についての用件のため出頭の旨の申し入れ	原子福次郎, 山崎半蔵	大平長右衛門	5月21日	
157	御用状 (剪紙)	常盤組小畑役所へ詰め合いの申し入れ	間山鉄五郎, 清藤左兵衛	大平長右衛門	12月25日	
158	御用状 (剪紙)	祝い事につき, 武者屯へ出頭申し付けられるについての申し入れ	一戸宇作	宇野兵助	嘉永5年(1852) 3月21日	
159	御用状 (剪紙)	浪岡組赤坂村宇野兵助, 五人扶持, 御用達加担の下命			明治元年(1868) 12月24日	
160	御用状	赤坂村宇野兵助, 家名相続方に関することほか	大平忠三郎	宇野兵助	2月25日	
161	御用状 (剪紙)	家名 (道川五右衛門) 相続届提出の催促	郡所小頭	宇野兵助	3月5日	
162	御用状 (剪紙)	高野吉野田土居見分に関し, 再確認の申し入れ	代官	宇野兵助	4月6日	吉野田村は現浪岡町
163	御用状 (剪紙)	御内備米上納の申し入れ	詰合手代	兵助	6月11日	
164	御用状 (剪紙)	代庄屋申し付けられるにつき, その旨の申し入れ	代官	百姓 (宇野) 今五郎	5月24日	
165	御用状 (剪紙)	夫喰米別帳1冊入手の返事	手代	庄屋 今五郎	5月27日	
166	御用状 (剪紙)	黒石表へ売払米差留につき, 自分居村吟味方の申し付け	御代官	宇野今五郎	8月9日	
167	御用状	検見人見分に対する応待方について	代官所	代庄屋 今五郎	9月5日	
168	御用状 (剪紙)	検見衆廻郷の折, 村提ヶ札及び枠入廻りに別紙添え差し出し方の申し入れ	手代	庄屋 今五郎	9月12日	
169	御用状	沢・山見分案内のため刻限迄役所へ詰め合いの申し入れ	手代	庄屋 丑蔵・今五郎	9月18日	

分類番号	資料名	内容	差出人	宛先	年・月・日	注記
170	御用状(剪紙)	急用につき、役所へ早急詰め合いのこと	御代官所	庄屋 丑蔵・今五郎	9月20日	
171	御用状(剪紙)	検見人休憩及び宿泊手配方申し付け	手代	庄屋 今五郎	9月22日	
172	御用状(剪紙)	検見人休憩時(昼)の手配方の申し入れ	代官所	代庄屋 今五郎	9月23日	
173	御用状	山廻役人宿泊所の取り決め方について	手代	代庄屋 今五郎	9月23日	
174	御用状(剪紙)	米の買入人と買受人の申し渡しについて			宝暦3年(1753)11月	弘前：小中甚兵衛，中畑兵右衛門，今泉伝兵衛 左方：野崎弥惣次，万屋六郎右衛門，菊屋善兵衛。 前半付紙(覚)，貼継ぎ
175	御用状(剪紙)	屋形へ詰め入りの申し付け(江戸，御近習小姓任命)	大谷津三内，近藤太郎左衛門，伴野善蔵，豊嶋勘左衛門	村上伝次郎	明和4年(1767)10月2日	上包あり
176	御用状(剪紙)	忤所吉へ御目見下命につき，登城の申し付け	一町田右作	五十嵐長蔵	文政8年(1825)7月晦日	裏書：文政8年8月1日御目見済
177	御用状(剪紙)	謡初につき登城の申し付け	工藤伝兵衛	村上岩次郎	文政9年(1826)正月2日	裏書：文政9年1月3日初めて御謡初へ罷出
178	御用状(剪紙)	縁組許可	土門八郎	楠美悠作	天保6年(1835)12月11日	
179	御用状(剪紙)	御用につき登城の申し付け	津軽直記，宇佐美平左衛門，兼松伴太夫，須藤半兵衛，土門八郎	村上金九郎	天保10年(1839)9月27日	天保十己亥年9月28日，御馬廻番頭被仰付。上包あり
180	御用状(剪紙)	改名願(先祖の名荘司と)許可の連絡	大道寺族之助	楠美悠作	嘉永3年(1850)3月1日	貼紙あり
181	御用状(剪紙)	兵士加勢の申し付け	添田有方	楠美荘司	文久2年(1862)4月4日	
182	御用状	脱藩者(兼平理右衛門ほか3名)出訴につき取調べ中差止めの件	弾正台	弘前藩庁	明治4年(1871)正月9日	
183	御用状(剪紙)	御用につき，礼服用の上，即刻役所へ出頭のこと	中津軽郡 郡役所	今村要太郎	明治12年(1879)7月21日	
184	御用状(剪紙)	中畑忠三郎の別宅願許可につき，その旨の申し付け	名主	工藤屋要吉	1月20日	上包あり

分類番号	資料名	内 容	差出人	宛 先	年・月・日	注 記
185	御用状 (剪紙)	呼取り, 願の通り許可についての申し入れ	鳴海清左衛門	石岡源五郎	1月27日	
186	御用状 (剪紙)	郡所へ出頭の申し入れ	原子福次郎, 山崎半蔵	赤坂村 又吉	2月12日	
187	御用状	御用につき出庁の申し付け	監正署	佐々木多吉	2月14日	
188	御用状 (剪紙)	御用につき出庁の申し付け	監正署	赤石礼次郎	2月14日	
189	御用状 (剪紙)	父馬見分日程延期の申し入れ	郡所 馬調方	大鱈組 手代中 牛馬取扱中	3月24日	
190	御用状 (剪紙)	勤料増と帯刀御免の申し付け		御献上御馬口取 荒町 豊次郎	当3月	
191	御用状	外国人雇入免状交付につき出頭のこと	外務省	青森県	2月29日	
192	御用状 (剪紙)	御用につき役所へ詰め合いの申し入れ	原子福次郎, 山崎半蔵	宇野又吉	5月20日	
193	御用状 (剪紙)	学士へ薬王院寄宿申し付けについての連絡	学校司務	紀伝掛 学士中	6月13日	
194	御用状 (剪紙)	登城の申し付け	津軽頼母	竹内清之丞	6月21日	
195	御用状写	黒石領花巻村畑地開発再願につき, 出会见分の結果及びそれへの対応についての返書	今 直蔵	浪岡組 代官	7月14日	
196	御用状 (剪紙)	検見野帳早急提出の申し入れ	手代	前坂村 庄屋	8月24日	
197	御用状	昇給・昇進の申し渡し	御用人 高屋半左衛門	佐藤林之丞	9月1日	
198	御用状	使部助を免じ, 小者取扱(1日, 1升5合賄)の申し付け	県庁	佐藤綱吉	9月27日	
199	御用状 (剪紙)	郡所に詰め合いの申し付け	長谷川仙次郎, 工藤九郎一	大平徳太郎	10月28日	
200	御用状 (剪紙)	香具屋吉右衛門, 実家(伊勢屋)家名相続等の許可の連絡	松井四郎兵衛	三国屋儀兵衛	11月21日	附紙あり: 御用状(剪紙)上記許可の申し入れ。香具屋吉右衛門宛, 差出人名主, 11月21日
201	御用状 (剪紙)	屋形詰の申し付け	伴野善蔵	村上伝次郎	14日か	裏書: -御国-御供下り被仰付ノ切紙。一部欠損
202	御用状	早瀬野山寒水沢の流木杣取, 役木上納の条件で許可につき申し入れ	(町年寄) 松山善左衛門	中畑屋兵右衛門	7月13日	

分類番号	資料名	内容	差出人	宛先	年・月・日	注記
203	御用状(剪紙)	無役津出願い許可についての申し入れ	松山善左衛門	中畑屋兵右衛門	12月24日	
204	御用状(剪紙)	炭焼出し方と販売願いにつき、許可ある旨の申し入れ	大坂屋万右衛門	中畑屋兵右衛門	寅11月3日	
205	御用状(剪紙)	流木川流れにつき、矢来杭用に松木20本杣取願い許可についての申し入れ	大津屋喜右衛門	中畑屋忠兵衛	2月17日	
206	御用状(剪紙)	虹見山で流木杣取と礼銭について	松井助右衛門	中畑屋忠兵衛	4月23日	
207	御用状(剪紙)	四品叙位につき、祝宴と能拝見のため武者屯迄出頭申し付けられる件	相沢屋喜右衛門	中畑屋忠兵衛	8月8日	
208	御用状(剪紙)	御祝頂戴と能見物申し付けられるにつき、登城の連絡	成田徳蔵	中畑屋忠左衛門	3月21日	
209	御用状(剪紙)	祝事につき、祝宴・能見物申し付けられるについての連絡	成田徳蔵	中畑屋忠左衛門	9月22日	
210	御用状(剪紙)	御用につき町奉行所へ詰め合いの連絡	松井四郎兵衛	中畑屋忠左衛門	9月11日	
211	御用状(剪紙)	御用につき町奉行所へ詰め合いの申し入れ	松井四郎兵衛	中畑屋忠左衛門	10月29日	
212	御用状(剪紙)	御用につき役所へ詰め合いの連絡	永野弥門	中畑屋忠左衛門	12月3日	
213	御自筆之写	給禄に対する忠勤方等について			天保5年(1834) 10月	
214	御条目	前書：長勝寺の由来；延宝9年御条目；江戸公儀御条目；貞享4年御条目；江戸役寺三ヶ寺御条目				写。延宝9年=1681年， 貞享4年=1687年。巻紙
215	上意	公武合体の変革につき ①武備充実 ②月次御礼廃止や規式の差し止め ③服装の簡略化 ④参勤交代の割当と規制の緩和 ⑤その他			文久2年(1862) 閏8月15日	巻紙
216	叙位状	藩主四品に叙位			12月16日	
217	[御用之覚]	樋口善右衛門，江戸登の際二男長七同道願いほか	今井源五右衛門，堀五郎左衛門，館山善左衛門，唐牛十郎右衛門，丹野序右衛門	間宮九郎左衛門	宝永7年(1710) か，4月15日	前欠
218	御用之覚	江戸留守居勤の面々交代下りのこと；濱藤・狗背(ぜんまい)到来のこと；その他5件	今井源五右衛門，堀五郎左衛門，館山善左衛門，唐牛十郎右衛門，丹野序右衛門	間宮九郎左衛門	宝永7年(1710) 4月23日	

分類番号	資料名	内 容	差出人	宛 先	年・月・日	注 記
219	御用之覚	交代(下り)途路に差し出された書状拝見のこと; 御姫様縁組のこと; その他	今井源五右衛門, 館山善左衛門, 丹野序右衛門	唐午十郎右衛門	宝永7年(1710) 7月26日	YK289-99-1 丹野序右衛門書状
220	御用之覚	本多伯耆守よりの奉書受け取りに関すること; その他3件	今井源五右衛門, 館山善左衛門, 丹野序右衛門	唐午十郎右衛門, 間宮九郎左衛門, 堀五郎左衛門	宝永7年(1710) 7月26日	本多伯耆守(正永)は老中
221	御用之覚	細井佐次右衛門, 北条新左衛門, 新見七右衛門連署の返書差下しのことほか	今井源五右衛門, 館山善左衛門, 丹野序右衛門	唐午十郎右衛門, 間宮九郎左衛門, 堀五郎左衛門	宝永7年(1710) か, 7月26日	
222	[御用之覚]	参勤交代(下り)の途路宿駅における宿の設定に関すること, その他	今井源五右衛門, 館山善左衛門, 丹野序右衛門	堀五郎左衛門	宝永7年(1710) か, 7月26日	前欠
223	[御用之覚]	御廻国衆, 松前の巡見をすませ青森へ帰帆。渡海に前後し領内の巡見完了。交代(下り)途路への御用状拝見のこと, その他	今井源五右衛門, 館山善左衛門, 丹野序右衛門	堀五郎左衛門	宝永7年(1710) か, 7月26日	前欠
224	御用之覚	喜多村監物御用兼役, その他	津軽主水, 西館織部	堀五郎左衛門, 棟方十左衛門	宝永7年(1710) か, 7月24日	
225	御用覚	発駕の際の行列の見送りと発駕後の屋敷廻りの火の用心のことほか	大道寺隼人	津軽靱負	7月9日	
226	御用覚	公方, 浜御殿へ出駕についての連絡, 上野(津梁院)における法事に関すること, その他	大道寺隼人	津軽靱負	10月11日	写, 巻紙
227	書状	雑事12件	大道寺隼人	津軽靱負	10月朔日	前欠
228	御用之覚	小館角兵衛上方登りにつき下され物検討の件	棟方十左衛門	津軽主水, 堀五郎左衛門, 高倉五兵衛	11月24日	交代上りでないため
229	御用之覚	東海道往来の不時金送達のこと	江戸 勘定奉行	五十嵐所吉	7月3日	金20両。色紙あり, 半紙, 上包あり。
230	県用之覚	御用金到着のこと, その他4件		御一統	9月18日	
231	御内意	奥羽列藩同盟脱退をすすめる上書	津軽越中守家来 西館平馬		明治元年(1868) 6月	写, 上包あり
232	御内意	弘前御用達今村九左衛門(ほか各地御用達3名)へ五葉紋服を与えるについて善処方の上書	勘定奉行		正月	他の3名: 青森問屋家業御用達 伊東善五郎, 鱈ヶ沢問屋家業御用達 戸沼半兵衛, 板屋野木村御用達 松山長左衛門

分類番号	資料名	内 容	差 出 人	宛 先	年・月・日	注 記
233	御内意 (覽)	劣作による窮民対策用備米のための京・大坂並びに越後・酒田その他よりの借金(残金)返済等に関する上書	町奉行		8月	
234	御内意	勤続20~34, 5年に及ぶ小人の昇給(銭60目と2人扶持)と昇格(本小人)願等に関する上書	勘定奉行		3月28日	
235	内意	三馬屋滞留中の目付に対する応待の仕方等		御用聞兩人		
236	御内意	両浜, 龍浜, 大川平等の見分に関わる諸伺い				御用聞を以何之部
237	御用答	箱館表への人員派遣に関する事(船便等)	津軽永孚, 牧野左次郎, 津軽多膳	津軽主水, 喜多村監物, 大道寺隼人	正月28日	
238	御用答	關役に付, 御手廻石岡勘四郎を大間越町奉行へ, 御馬廻与力角田七十左衛門を馬廻格寺社役への任命について, ほか1件	津軽主水	堀五郎左衛門, 棟方十左衛門	4月24日	前者は可, 後者は不可
239	御内状答	忌中・産穢の節, 勤務免除の願について	津軽主水, 西館織部	堀五郎左衛門, 棟方十左衛門	宝永7年(1710)か, 7月24日	
240	御用答	百沢寺勤化並びに湊役銭上納, その他公用関係について	福次郎	吉右衛門	3月6日	
241	内状	今別町並びに一本木村焼失家屋調べ提出に関する事	御用人	御用人中	4月19日	
242	達	公武合体に関わる勅掟のこと			午ノ9月	写
243	達	使部仕丁廃止の上, 等外1・2・3等附屬を設ける件ほか			10月3日	
244	口達	稲作不熟のため, 生活に難渋とは言え奉公精勤たるべきこと	御用人		10月	
245	口達	御用金上納に対する褒賞の件			12月	写
246	達	“別紙の通り”の達し	御本営 不破一学, 柳田東洋	弘前藩 揚陸場		
247	演説書	変革につき武備充実を第一に, 他は格式・旧例にこだわらず簡易にすべきこと	御用人		8月	
248	触	衣食住の奢侈, 重立の者の風儀, 諸商売高利等に対する規制についての御用所よりの演説書内容の徹底方について			嘉永5年(1852)閏2月8日	

分類番号	資料名	内容	差出人	宛先	年・月・日	注記
249	触	大赦（桜田門外の宴に関わるものか）を布告するに当たり、罪状による赦免の適用について				
250	触	秤に関する規制の徹底方について		西丸奥向	午五月	
251	触書	越後掻子へ漆掻の報酬について	郡処 漆方	大平忠三郎, 宇野貞助	7月9(10)日	半紙
252	触	諸寺院寺禄廃止に関わる供養費捻出方について	大道寺 族ほか6名列記	各様	明治元年(1868)か, 12月	
253	伺書(覚)	海岸警備弛緩に対する締り方申し渡しについて	御用人		弘化3年(1846)7月	裏書: 弘化3年7月18日, 沙汰之通/剪紙
254	伺書(覚)	御持鑓奉行, 田井隼人, トントロ製造方差図向心得について			万延元年(安政7年)(1860)1月	裏書: 沙汰之通, 万延元年1月11日/剪紙
255	伺書	漆生産の再興を図るため, これまでの漆奉行に代わり漆方席を設けて当たらせる。一方, 苗木の増産と頒布の奮励について			安政7年(1860)3月か	裏書: 沙汰之通, 安政7年申3月8日スム
256	覚	漆仕立増に関する件			安政7年(1860)3月8日(済)	
257	伺書(覚)	役馬・稽古馬見分のため, 年齢・毛色の事前報告の徹底方について			安政7年(1860)3月	裏書: 沙汰之通, 安政7年(万延元年)3月25日済
258	伺書(覚)	作柄不良のため, 祝能見合わせについて			安政7年(1860)3月	裏書: 安政7年一, 沙汰之通
259	伺書(覚)	西洋流炮術並びに歩兵操練につき, 門弟を御家中並びに諸組の稽古に当たらせる件について			万延元年(安政7年)(1860)閏3月か	裏書: 沙汰之通, 万延元申閏3月25日
260	伺書(覚)	御省略中につき, 御目見以上当番の節の服装について			万延元年(安政7年)(1860)閏3月	裏書: 申出之通, 万延元年
261	伺書(剪紙)	砲術稽古者の昇給伺い			万延元年(1860)4月か	裏書: 沙汰之通, 万延元年4月21日済
262	伺書	廻小人より永代小人に任命された者に対する扶持料についての伺い			万延元年(1860)4月か	裏書: 沙汰之通, 万延元年4月21日済

分類番号	資料名	内容	差出人	宛先	年・月・日	注記
263	伺書(覚)	馬場寅之進, 非常の節松前渡海心積り申し渡しの件			万延元年(1860)5月	裏書: 沙汰之通, 万延元年5月15日済
264	伺書(覚)	召馬口取本役の取り立てについて			万延元年(1860)6月	裏書: 沙汰之通, 万延元年9月朔日済
265	伺書(覚)	養蚕奨励の件(山下村々, 特に駒越・赤石両組及び大間越)			万延元年(1860)8月	裏書: 沙汰之通, 万延元年申8月ノ7済
266	伺書	三国屋久左衛門, 楮仕立並びに紙漉立資金の献納方及びそれに対する処置に関する事			万延元年(1860)9月か	裏書: 沙汰之通, 万延元年9月14日済
267	伺書(覚)	非常の節, 松前渡海心得の件	御用人		万延元年(1860)10月	裏書: 沙汰之通, 万延元年
268	伺書(覚)	来春下向の際, 迎え登り者の名前提出について			万延元年(1860)11月	手廻5人, 馬廻3人ノ裏書: 沙汰之通, 万延元年12月
269	伺書(覚)	彰信院への毎月の参詣日を14日に定める件等について			万延元年(1860)12月	裏書: 万延元年未ノ12月済。彰信院は津軽泉子, 11代順承の妻, 文化8年~嘉永元年(1811-1848), 命日は6月11日
270	伺書(覚)	西洋砲術稽古の件			元治元年(1864)5月	裏書: 沙汰之通, 元治元年子6月2日済
271	伺書(覚)	世情物騒, 浮浪者入り込みの風聞につき, 三関所・町奉行職務の徹底方について			元治元年(1864)8月	裏書: 申出之通, 元治元年子8月22日スむ
272	伺書(覚)	浮浪者奥羽に立入り, 松前渡海の風聞あるにつき, 各関所固めの件について			元治元年(1864)8月	裏書: 沙汰之通, 元治元年子8月25日済
273	伺書(覚)	浮浪者南部へ入り込み, 更に松前・箱館に渡海の様子につき, 三関所ほかへ取締り申し付けについて			元治元年(1864)8月	裏書: 沙汰之通, 元治元年
274	覚	浮浪者奥羽に入り込み, 剩え南部領, 松前, 箱館辺まで通行につき箱館表より入国取締りの申し入れ			元治元年(1864)か, 8月	裏書: 沙汰之通, 元所元司
275	伺書(覚)	節儉中につき, 上・下の際, 供者等の服装簡素化について触れの伺い			元治元年(1864)9月	裏書: 沙汰之通, 元治元年
276	伺書(覚)	京上り(近衛警衛)に付, 跡急上りの人員の件			元治元年(1864)12月か	裏書: 沙汰之通, 元治元年子12ノ26済

分類番号	資料名	内 容	差 出 人	宛 先	年・月・日	注 記
277	伺書(覚)	近衛様警衛のため、登京の申し付けについて			元治元年(1864) 12月	裏書：沙汰之通、元治元年子12ノ28
278	伺書(剪紙)	上方への出発期日の取り決めについて	八兵衛		1月8日	上包あり
279	伺書(覚)	青森湊目付1人につき、組み合わせ1人派遣についての交代伺い	五十嵐所吉	戸田利吉、笹森弥八郎	正月16日	半紙折・横
280	伺書(覚)	藤代組大庄屋蒔苗七右衛門、鷹野宿停止に関する件	大沢源五郎、五十嵐忠左衛門	平沢権太夫	4月19日	
281	伺書	各隊渡物(蠟燭・草鞋)について	小荷駄奉行		4月19日	
282	伺書(剪紙)	蒔苗孫右衛門、松前方御用懸申し付けられるにつき、海辺通見分御用免の伺	菊池 寛 []	牧 左次郎	5月1日	
283	伺書(剪紙)	町人方への返済金に関する件	杉山八兵衛、瀧川平右衛門		申6月7日	貼紙あり
284	伺書	松前志摩守下向の節、三厩表逗留につき見舞の処、臆中のため今別奉行所より使者代行の件			6月22日	
285	伺書	赤坂村亥助出奔、ついでには帰村許可願い出の件	庄屋 兵吉	高 弥伝司、工九郎一	9月	下書き、半紙折・横
286	伺書	松前箱館詰番頭一組派遣計画書(職名・人員)	津軽越中守		10月5日	
287	伺書(剪紙)	枯漆木伐り取り願の提出方について申し入れ	漆方	浪岡組 漆仕立増懸合手代	10月22日	
288	伺書(覚)	絵図清書を津軽蔵人上ヶ屋座敷で認める件について	竹内長左衛門、菊池寛司	森 金吾	11月7日	
289	伺書	御迎え登りについて、支度難渋の事情もあるため確認調査の伺い				
290	上書(剪紙)	赤坂村宇野兵助を郡所小頭席へ出頭させるに ついての上申	吉沢庄三郎	浪岡組 御代官	2月22日	
291	上書(剪紙)	浪岡組赤坂村用水堰破損、普請のため、懸合杖突一人派遣について、庄屋への申し付け方 について	桜庭清八	浪岡組 代官	3月22日	
292	上書(剪紙)	百姓(大平)、長右衛門を浪岡組高館村庄屋役に申し付けるに ついての具申	野呂助左衛門	代官	8月4日	

分類番号	資料名	内 容	差 出 人	宛 先	年・月・日	注 記
293	上書(剪紙)	漆苗を高館村大平長右衛門へ譲渡につき、植付後の漆方見分の具申	桜庭清八	浪岡組 代官	10月3日か	
294	上書	枯漆木伐り取りについて、見継ぎ違いの場所につき、穿鑿方の申し入れ(内事)	工藤常三郎	大平徳太郎, 宇野忠兵衛	10月22日	
295	上書	出奔, 行衛不明者の稲の預け方について	尾別村 庄屋 清太郎	上	卯12月9日	半紙折・横, 上包あり
296	上書	稲盗人より押収した稲の封印切りに関すること	嘉瀬村 庄屋 市五郎, 五人組 林次郎・作太郎	上		田地と当年稲作並びに有稲の数量。半紙折・横, 上包あり
297	口上之覚	腹痛のため, 薬用中代庄屋役免除願	赤坂村 代庄屋 金五郎	佐 久次郎, 工九郎一	酉5月	半紙折・横
298	口上之覚	田方欠落, 普請のため薦の者1人拝借願	赤坂村 代庄屋 兵吉	佐 熊四郎, 工九郎一	戌9月21日	控, 半紙折・横
299	口上之覚	悪地のため, 漆仕立方難渋につき物成御免願	宇野兵助	長 仙次郎, 工九郎一	子11月	控, 半紙折・横
300	口上之覚	賃金支払いをめぐる諍に関する事	赤坂組 宇三郎	代庄屋 兵吉	酉11月	末書(裏書)あり…佐 久太郎, 工九郎一宛; 代庄屋 兵右衛門より。半紙折・横
301	口上之覚	赤坂村庄屋勤中, 田畑調の際の不始末に関する事; 赤坂領境誤認に基づく不始末に関する事の沙汰について	赤坂村 宇野又吉	黒 瀧五郎, 工彦兵衛	寅9月	半紙折・横
302	口上之覚	農地の確認, 銀納地願い出に関する事	(中別所村) 代庄屋 弥五右衛門	福 平内ほか	卯(慶応3年か)10月	控, 半紙折・横, 上包あり
303	口上	農地の検地に関わる件	中別所村 弥五右衛門	宮館村 対馬儀兵衛	10月12日	控。附: 農地略図…中別所村の内, 後野
304	口上書	高館村法味山の寺庵焼失につき, 黒石妙経寺の寺庵再建願の上書			1月	
305	口上書	預り金を費い果した理由や経緯について纏々記述した, 失費の許しを乞う上書	銀蔵	上	正月	1冊(2丁綴) 半紙折・横・仮
306	口上書	北島の碑文拝借について	山崎所左衛門		3月28日	
307	口上書	官米直段向きに関する伺い	熊七	上	4月12日	
308	口上書	元ゆい値段に関わる事	一角	茂角	5月4日	

分類番号	資料名	内 容	差出人	宛 先	年・月・日	注 記
309	口上書	松前進撃につき、国元兵隊先鋒を画してのテレス艦買入計画及びそれに関連する件	工藤左膳		7月19日	
310	口上書	下命（内容不詳）の件に関しての口上	愚弟 忠兵衛	大平(尊兄閣下)	旧8月24日	
311	口上書	証文下書へ加筆のため認め直しに関する事	高森三四郎, 足羽二郎三郎	松 四郎兵衛	9月23日	
312	口上書	上記口上書に関する事	三四郎	四郎兵衛	24日	
313	口上書	新屋村代庄屋並びに代五人組、代役解任と他出差留のこと	左源太	御大将, 御算者	9月24日	
314	口上書	久保田出役（庄内征伐）勲勞に対する慰勞金下付に関わる件	一町田大江	松井 某	明治2年(1869)12月頃か	
315	口上書	親の薬代助情願いの上書	佐藤伊賀	宇野兵助	12月	半紙折・横, 上包あり
316	廻状	因州様よりの順達書付写の廻達と返却について	津軽内 野呂源太	御用人中	5月9日	因州は因幡国鳥取藩第12代藩主・池田慶徳のことか
317	廻状	遊行上人入用品の納入方督促	代官所	中野村ほか5ヶ村 庄屋	6月1日	遊行上人とは時宗遊行派の指導者。全国各地を歩き念仏を説いた。江戸時代には幕府や藩の保護があった。
318	廻状	収納米督促ほか3件	代官所	中野村ほか8ヶ村 庄屋	10月13日	
319	廻状	漆木植付についての意見書	桜庭清八	五人組・代官	子12月	廻状先：常田耕吉ほか
320	廻状	屋形様染筆拝見のため役所へ詰合の件	山崎半蔵, 清藤左兵衛	鎌田勘三郎ほか		御用状
321	廻状	三御寺への献金について				
322	年頭祝詞	新年の祝詞	小山屋吉兵衛（伸英）	龍江様御近習中		杉山龍江：天保12年～明治28年(1841～1895)。上総とも。幕末の津軽藩家老。
323	年頭祝詞	年頭祝詞	茨木屋大次郎庸賢, 茨木屋和助庸修	工藤伝兵衛, 毛内有衛門, 本多東作, 竹内又市	正月朔日	
324	年頭祝詞	年頭祝詞	津梁院（徳門）	西館孤清, 大道寺族, 杉山龍江	正月	

分類番号	資料名	内 容	差 出 人	宛 先	年・月・日	注 記
325	覚	於取上御仕置場申渡之覚	検使・竹内理門, 出座・御徒目付ほ か		11月26日	取上村仕置場において中 里村高無勘助弟末太郎, 殺人罪により獄門の申渡 状
326	覚	兼平理左衛門, 山田登の藩典違犯行為と処分 について	此嶋九十郎, 佐藤 右平衛		8月2日	控
327	覚	村上家累代, 藩主書出頂戴について	村上利右衛門		8月	合計7通, 美濃折紙, 横長
328	覚	嫡子願について	村上利右衛門	相馬作左衛門	2月10日	半紙折紙, 横長
329	覚	御紋形上下着用願について	村上文弥	津軽出雲	3月	下書, 半紙折紙, 横長
330	覚	悴五十嵐直蔵(当18歳)の月並出仕願い	五十嵐兵太郎	葛西彦六ほか	2月	[裏] 覚 悴五十嵐所吉 (当18歳), 以下上に同 じ。宛先: 川越亦八郎ほ か。差出人: 五十嵐屯蔵。 12月。ノ半紙折, 横, 控2 通, 上包あり
331	覚	五十嵐兵太郎身上家族調	五十嵐兵太郎(貞 彬)		天明元年(1781) 12月23日認む	
332	覚	国友之刀1本, 2両2歩で売上げ証	矢嶋万三郎	宮崎庄兵衛	安永2年(1773) 月日なし	
333	覚	刀・脇差ほか, 計4品の売上げ証		庄兵衛	11月朔日	物品の説明あり。
334	覚	本草, 短刀, 茶釜の売上げ証	取ノ利助		12月25日	
335	覚	青貝文庫ほか4品の売上げ証	大坂屋茂兵衛ほか 1人	宮崎忠兵衛	寛延4年(1751) 閏6月	
336		解除祓			安政6年(1859) 8月24日	写
337		薬価調書ならびに領収証4通	金光堂医院ほか調 剤所3件	赤坂村 宇野兵 三郎	明治28年(1895)	封筒入り
338		引越届	平沢定雄	県庁	10月7日	
339		奉納者名簿(カ)				内容不詳。願主ほか氏名 (実名併記)と献納材木 本数書き上げ。

分類番号	資料名	内 容	差 出 人	宛 先	年・月・日	注 記
340	届	縁談	工藤五左衛門	県庁	10月	
341	届書	田畑分与による転居の届	秋元蔵主	縣庁	10月22日	控
342		人名列記書			7月	大道寺 族ほか8名
343	書留	世相, 風説等			11月30日	
344	覚	田地分賦(柏木組高増村)につき移住のための屋敷地割り渡し方願い	式拾俵 佐藤於久弥	監正署	8月19日	
345	覚	赤坂村, 田方諸堰拾水懸のこと	代庄屋 金五郎		酉8月	半紙折, 横
346	覚	仲間ならびに陸尺の由緒書(34冊)提出について	斎藤甚五郎, 山形喜与吉	杉山八兵衛	9月8日	
347	覚	土手町近江屋八太郎・松屋忠右衛門, 家業(酒造)方無調法につき家業取り上げの処, 差し許し迄の経緯について	町奉行		9月10日	
348	覚	鎖港決定のため開戦に備え, 箱館警衛及び自国防御専務のこと			10月8日	9月21日, 長州征伐出勢下知のこと
349	覚	衆生得度のため, 一家・一院, 一人・一己の勝手たるべからざること等について, 四山への達し方の件	両寺社奉行	最勝院	9月28日	
350	覚	払米と金銭に関わること(6件)			9月	
351	覚	奇兵隊派遣・人選等に関わる要望書	奇兵隊頭	武芸引担当者中	10月20日	
352	覚	増館組村々収納米五日おき断俵のこと	佐々木久次郎, 野呂謙吾	吉 庄三郎	10月晦日	増館村代官
353	覚	枯漆木伐取願について	漆役 宇野今五郎	高 弥伝次	10月	控, 浪岡組御代官。(裏書あり)高松弥伝次より後門之丞宛て。半紙折, 横。
354	覚	護穀神社神事, 代行のこと	笹森百郎		11月15日	添状とも。半紙折・横
355	覚	下田渡来の垂墨利加船よりの地形測量依頼に対する心得について				
356	覚	町奉行榊原主計頭へ仙台刀鍛冶2名呼出しの件				
357	覚	水田肥料として, 油粕の効用と普及方について			天保の頃か	

分類番号	資料名	内 容	差 出 人	宛 先	年・月・日	注 記
358	覚	木曾路, 北国筋の路金・馬銀について				
359	覚	路用金等				
360	覚	鐘・十文字鐘, 稽古道具等の代金と支払いについて				
361	覚	漆植付役のこと				下書
362	覚	誕生日につき, 差上金割当書				
363	覚	金銭と名前の列記				
364	覚	欽姫婚礼関係日程				写。10代信順と欽姫との婚礼は文政9年(1826)11月24日
365	覚	近衛様警衛のため登京者案内並びに勤務中の服装(熨斗目)拝借に関すること			元治2年(1865)か	下書
366	覚	上々様固衛のため御手廻・御馬廻・御中小性等江戸上りについて				下書
367	覚	検見有下御定法根本				下書
368	覚	上納金割当書(カ)				
369	覚	松前出兵依頼の件その他時勢に関する事等			11月22日認む	
370	覚	御役免許につき, 財政に関する件の申し渡し等	毛内有右衛門	河野	11月	河野は河野六郎道篤か。折・横
371	覚	収納米皆済者に対する酒代賞与の達し	代官	増館組 手代	12月24日	
372	覚	銃隊員の雇入れと賞に関する事	軍務局 司務	軍務局中	12月	
373	覚	借上金上納の振り合い増に対し, 例年通りとするよう御用達中への諭し方について	惣名主(町年寄)	松井助左衛門	12月	
374	覚	津軽平八郎御用人兼役免除, その他人事に関わる件についての触れ方	記録者: 須藤六郎 右衛門		6月26日	
375	覚	御老中加判列, 名改並びに祝儀参上の際の対応方について				
376	覚	御老中加判列, 名改並びに祝儀参上の際の対応方について		関備前守	6月	送達の下書

分類番号	資料名	内 容	差 出 人	宛 先	年・月・日	注 記
377	覚 (遠)	異国船渡来につき、公辺より交代登に関しての達			丑ノ7月	
378	覚	養老手当金の減額について	印證方 会計司		7月	
379	覚	京都騒擾の折、格別精勤につき褒賞の件 (五十嵐所吉ほか)			正月15日	
380	覚	殿様上着、参内後の祝儀につき、出頭記帳の申し付けに関する連絡	石橋外江	山野主馬	1月21日	
381	覚	帯刀御免の郷土・手代・庄屋共、何右衛門改名に関する事			正月21日	山形宇兵衛→代官へ、代官→村々庄屋へ、詰合手代・手代→大平長右衛門、庄屋佐右衛門
382	覚	藩主御祝儀事のため、本陣へ出頭、帳記の申し触れについて	五十嵐所吉	奈良岡東馬ほか	正月22日	書状
383	覚	浪岡等3組に対する買越米代金調達と他組割合のこと	代官		午正月25日	半紙折、横
384	覚	小人の昇給、昇格に関する件	勘定奉行	釜 多門	2月25日	
385	覚	上納金(カ)三十両以上の氏名	浪岡組 手代	上	午2月	上書
386	覚	富田御屋敷跡水車場所 (火薬原料搗立) 近辺に立入禁止の触の連絡	七組通用番 五十嵐所吉	小野龍太郎ほか 14名連記	3月6日	
387	覚	銭払底につき、在方重役へ納付方に関する事	山形甚之丞		3月6日、8日	
388	覚	今別町出火に関する報告ほか	三厩勤番 原田安左衛門		4月11日	報告書
389	覚	建馬、売馬の件についての願い出	山形平八	尾崎組 代官	5月15日	
390	覚	代官町裏通りより土手町裏通りの楮畑並びに苗代地の屋敷地変更に関わる件	民事局市司務		5月27日	
391	覚	武田正三郎、上納金等に関する件				記載：天明3年(1783)～天保10年(1839)
392	覚	坊主・組頭ほかへの料理・衣服・金子等給与についての書付			文政8年(1825) 4月	
393	覚	役職・人名(9名)			元治元年(1864) 12月28日	

分類番号	資料名	内 容	差 出 人	宛 先	年・月・日	注 記
394	書状	召使辰の一件に関する扱い方, その他	平八郎	(大平) 忠三郎	1月21日	
395	書状	婦子を返す件	内山丹次郎	大平忠三郎 (長右衛門)	3月6日	
396	書状	漆掻きのもとへ出かける予定の処, 事情あり不参の件	弥七郎	大平長左衛門	7月9日	
397	書状	詮議の結果, 申出の件受届の連絡	(浪岡組高館村) 庄屋 弥七郎	大平長左衛門	9月22日	
398	書状	申し付け (内容不祥) に関する意向等	長谷川宗右衛門	庄屋 長右衛門	閏月29日	
399	書状	越中島警固のため軍資金調達方の依頼	御代官所	小屋敷村 今五郎	6月	
400	書状	板柳において競馬開催に付, 鞍等の調達方についての返書	彦兵衛	今五郎	5月21日	
401	書状 (剪紙)	私事	内	今五郎	7月5日	
402	書状 (剪紙)	別紙受取方のこと	赤坂庄屋 兵三郎	宇野今五郎	4月30日	
403	書状	服痛度々のため, 薬をもらいうけるに関して, その他の私信	宇野兵助	宇野今五郎	2月17日	
404	書状	駄下米の送附方と代銭備前の処理等私的連絡内容	親	今五郎	2月21日	
405	書状	私的諸事について父子間の書信	親	今五郎	5月18日	
406	書状	米売払につき直段定めについて	親	今五郎	5月26日	
407	書状	時候の挨拶, 私信	斎藤良助	範司	2月11日	
408	書状	交際に関する諸事	長崎左忠	範司	6月8日	
409	書状	身辺のこと; 御登せの銅積入船, 深浦辺にて難船, 隠し荷揚の詮議と処分について; その他私信	(二百石) 岩崎元次郎	豊嶋範司	12月4日	
410	書状	勤助の勤学に関わること, ほか	長崎慶助	豊嶋範司, 長崎勤助	12月19日	長崎金城: 天明7年~安政6年(1787~1859) 幕末の津軽藩儒, 名は弼, 通称慶助/長崎勤助: 慶助の弟, 昌平黌に学ぶ, 後黒石藩家老

分類番号	資料名	内 容	差 出 人	宛 先	年・月・日	注 記
411	書状	一粒金丹譲与のこと, 他私信	大江	松井	正月27日	YK499- 8 一粒金丹試功, ほか
412	書状	罪状取り調べにつき小林呼び出しの件	東	松井	3月24日	
413	書状	藩札不融通に関すること	今村勇吉郎	松井 某	4月11日	
414	書状	消息等私信	今邨源三郎	松井	閏月7日	包紙あり
415	書状	身辺の動静, 米価前代未聞の高値に関わること, 施行米のこと等について	武田熊七	松井	12月20日	
416	書状	異人フルーリをめぐって	清兵衛	松井		
417	上書	宇野兵助, 郡所小頭席へ出頭のこと	吉治床三郎	浪岡組御代官中	2月22日	
418	書状	尊父死去の悔み状ほか1件, 私信	工藤金司	宇野兵助	4月8日	2通
419	書状	私信	鎌田平八郎	(宇野)兵助	6月11日	
420	書状	湯場で見た女について, 出身地や宿所について尋ねること, その他	源吉	宇野應助	7月4日, 7月5日	2通, 封筒入
421	書状	松煙(墨)の見本に関する件	山崎半蔵	宇野又吉	11月8日	
422	書状	私信(内事懇談)	三光山	宇野兵三郎	7月19日	封筒入
423	書状	法話取調方遅延について	照福寺 大蔵卿静了	赤坂村 宇野兵三郎	4月15日	
424	書状	法話取調方遅延について		赤坂村 宇野兵三郎	4月15日	
425	書状	御用向へ金子渡方, 米価入と直段をめぐっての件; 町兵を軍政局大隊と共に宇和野で高覧のこと及び関連記事; その他, 私信	龍太郎	父	10月7日	町兵取立頭の書状
426	書状	今村(九左衛門), 出金と帆前船取押えに関すること	小林友六	松井隼太	5月20日	
427	書状	藩御用達商人, 今村九左衛門, 同勇吉郎の藩開拓所御用金調達に関する件	高平常吉	松井隼太	6月2日	
428	書状	米の買付方に関する件	伊藤勘八郎	松井隼太	正月4日	
429	書状	来参者に同道の旨申し入れ	親	要太郎	2月23日	
430	書状	留守中役所火・盗用心向, その他に関すること	隠居	要太郎	5月8日	

分類番号	資料名	内容	差出人	宛先	年・月・日	注記
431	書状	私信（作事締め方その他）	隠居	要太郎	5月15日	
432	書状	人別改に関する事	本所	要太郎	8月17日	
433	書状	道具帳作成に関する事	和五郎	要太郎	閏月21日	
434	書状	朝寝諫めの事	九左衛門	要太郎	不明	
435	書状（剪紙）	流木受取人遣わし方の事	横瀬	（今村）要太郎	某月16日	
436	通知書	請取、役場へ提出の通知	中津軽郡 第2組 戸長役場	今村要太郎、寺 井純司	10月9日	
437	書状	毛氈および端午召物差下しの事、ほか	今井源五右衛門、 堀五郎左衛門、館 山善左衛門、唐牛 十郎右衛門、丹野 序右衛門	間宮九郎左衛門	宝永7年(1710) 4月15日	
438	書状（剪紙）	傍嶋太兵衛の遺物送達の連絡について	堀五郎左衛門、館 山善左衛門、唐牛 十郎右衛門	間宮九郎左衛門	宝永7年(1710) 4月23日	傍嶋太兵衛は九郎右衛門 のことか：元和8年～延 宝2年(1622～1674)、4代 藩主信政の家老
439	書状	鞘木十腰分登せ方、及び傍嶋太兵衛遺物の登 せ方とその披露方について	堀五郎左衛門、館 山善左衛門、唐牛 十郎右衛門	間宮九郎左衛門	宝永7年(1710) 4月23日	
440	断簡	断簡	今井源五右衛門、 堀五郎左衛門、館 山善左衛門、唐牛 十郎右衛門、丹野 序右衛門	間宮九郎左衛門	4月23日	本文欠
441	書状（剪紙）	御用状に対する返事の件	今井源五右衛門ほ か3名	唐牛十郎右衛門	宝永7年(1710) 5月7日	
442	書状	谷口五郎兵衛、若殿様中間頭等帰着の事、 その他2件	今井源五右衛門、 堀五郎左衛門、館 山善左衛門、丹野 序右衛門	間宮九郎左衛門	宝永7年(1710) 5月7日	
443	断簡	右京出御（交際カ）についての書状	今井源五右衛門、 館山善左衛門、丹 野序右衛門	唐牛十郎右衛門、 間宮九郎左衛門、 堀五郎左衛門	7月19日	前文欠、巻紙

分類番号	資料名	内容	差出人	宛先	年・月・日	注記
444	書状(剪紙)	娘再縁, 婚姻整うについての承届	笠原八郎兵衛	成田茂左衛門	安永4年(1775) 6月10日	
445	書状(剪紙)	卯之助, 善右衛門家督相続の上は家名引き立てに勤めるべきこと			文政3年(1820) 11月21日	家督相続許認の御用状の付紙
446	書状(剪紙)	養子呼取りについて	対馬刑部	諏訪門弥	弘化4年(1847) 2月10日	添状あり
447	書状(剪紙)	手当金の問い合わせに対する返答	佐野	精美	安政3年(1856) 月7日(月は不明)	
448	書状(剪紙)	芸道(槍術)熟達につき賞金(金700疋)下付のこと	岩淵惟一	村上周次郎	明治3年(1870) 2月4日	
449	書状(剪紙)	鎌倉宮の事件に関して(略答)	山中逸郎		明治5年(1872) 4月16日	
450	書状(剪紙)	面談につき, 大区々務処へ出頭方依頼	喜多村 勲ほか1名	葛西藤太	明治11年(1878) 9月6日	裏書あり
451	書状	消息その他			正月3日朝	
452	書状(剪紙)	通帳渡し方の願	宮川宇吉	水木	1月5日	
453	書状(剪紙)	用件(伺い通りの沙汰)の連絡	安西助市	喜多村監物	3月11日	
454	書状(剪紙)	本小人の内箱持役として, 背丈の者不在の連絡(返書)	掃除頭	仲間小頭	3月27日	
455	書状(剪紙)	御出馬供奉了承の件	津軽重次郎	三橋左十郎	4月14日	
456	書状(剪紙)	海辺通見分御用に同道承諾の件	蒔苗孫右衛門ほか1名	牧 左次郎	4月27日	
457	書状(剪紙)	地租等の金高に関する事	二双子村 工藤定吉	高館村 大平	4月29日	
458	書状(剪紙)	新御殿より出発についての連絡	小野所吉	津軽監物	5月28日	
459	書状(剪紙)	7月の通用番氏名の内閣について	柳田善司	五十嵐 某	6月29日	
460	書状(剪紙)	祈禱の件について	添田儀左衛門		閏6月26日	
461	書状(剪紙)	草取鎌・塵取渡方についての伺い	勘定奉行		7月25日	裏書あり
462	覚	頂戴物の頂戴可否に関する事	五十嵐所吉	西 平馬	12月18日	折・横

旧八木橋文書

分類番号	資料名	内 容	差 出 人	宛 先	年・月・日	注 記
463	書状 (剪紙)	在京中留守居助精勤のために与えられた賞金に対する礼状	五十嵐所吉	西 平馬	8月8日	
464	書状 (剪紙)	御蔵諸役勤務の儀申し立ての通り	高屋吾助	竹内長左衛門	8月10日	
465	書状 (剪紙)	漆取扱方申し付けられるについての承諾方について	田村重次	大平長右衛門	8月14日	
466	書状 (剪紙)	快気につき出立の連絡	田中秀蔵	柿崎定蔵	9月17日	
467	書状	祝儀につき酒肴呈上のこと	今 敬一	五十嵐貞隆	10月29日	
468	書状 (剪紙)	同居願いに対する許可の連絡	当麻忠左衛門	石郷岡亀吉	11月17日	
469	書状 (剪紙)	連絡の件 (内容不祥)	渡部将監	牧野左次郎	11月23日	
470	書状 (剪紙)	大小参事衆より進上の品代料の支払について	三ノ丸 勘算方	大嶋吉弥	12月20日	
471	書状 (剪紙)	黒石直八、役職不祥の件	添田儀左衛門	(喜多村) 監物	12月27日	
472	書状 (剪紙)	壁下地に必要な“よし”の調達に関する事	本所	役所中	某月10日	
473	書状 (剪紙)	来宅方の申し入れ	筑館庄右衛門	高館村 長助		
474	書状 (剪紙)	了意・宗因兩人揃の処で申上げること				染紙
475	書状 (剪紙)	時勢柄出張大儀の思し召し				
476	書状	交際関係ほか	主水	監物	7月8日	染紙, 継紙
477	書状	徳川脱走船6艘, 北海道鷲之木村(森町)海岸に碇泊, 上陸に関する情報, その他				
478	書状	左京亮供者の服装についての問い合わせに対する返答	大嶋半兵衛ほか1名	田代有大夫, 堀伝左衛門		
479	書状	御国絵図・旧記類拝借と嘯鳴集・板橋集をおくことについて	川村	松井	中元	漢学者 川村榴窠(りゅうか)先生書翰/川村榴窠:川村善之進。文政9年~明治元年(1826~68)稽古館学士, 儒者, 漢詩人。/YK919-10-イ, 口柳窠遺稿
480	書状	付き合い関係	谷村勝正	成田邦彦	某月24日	
481	書状	近古の事実の編集に係わる私信				

分類番号	資料名	内 容	差 出 人	宛 先	年・月・日	注 記
482	書状	愛太郎（赤石）沙汰待ちの件その他について			安政元年(1854)	内事／TK289- 1 赤石愛太郎母変死取扱より愛太郎水戸表において母の敵吉之助を討留候一件抜書, YK289-45- 1〔仇討一件〕ほか
483		赤石愛太郎記 赤石愛太郎の仇討と自害をめぐる世評（水戸），その他			安政元年(1854)	半紙 2 枚／赤石愛太郎：天保 5 年～安政元年(1834～1854)。18歳で藩の留守居役となり，赤石家を相続。嘉永 6 年藩の許可の出ないまま，母の仇討ちの旅に出，翌安政元年水戸で仇討ちを果たす。仇討ちは禁制であったので，幕府の裁きを受けることになったが，江戸護送中自害。享年20歳
484	書状	青龍丸と北野天神絵図を置き忘れたか落失したかについての問い合わせ				
485	書状	生計に関わる私信（飯米手配方ほか）				
486	書状	相談事	御ぞんじ	旦那		
487	書状	私信	はゞ（母）	おせき		女性の書状
488	書状	外国 との懸合に対する処置について		松代大人	中秋	
489	書状	扶持に関わること，その他 3 件			5 月 7 日	
490	書状	釈迦如来像 1 枚入手方依頼について				6 月 8 日達
491	書状	私信			4 月 2 日	
492	書状	剣，取り違いのわび状	痴老		10月29日	
493	書状	麻疹養生その他			某月 5 日	
494	書状	両国辺で見られた怪物体の飛来について，刀番の給料（1年20両）に関する事，ほか 3 件	河合半右衛門	笠原八郎兵衛	12月朔日	
495	書状	御奉書に対する返書（登城のこと）	山中純一（泰靖）	西館 融，杉山龍江，大道寺族	12月 6 日	
496	書状	岩木川結氷せざるため往反遅滞のこと；学校		子高	12月11日	

分類番号	資料名	内 容	差 出 人	宛 先	年・月・日	注 記
		積奠，単人名代のこと；江戸表大火騒ぎのこと；その他私信				
497	書状	無行田地作付けをめぐる件	高館村 善助，長助	築館庄三郎	12月16日	
498	書状	社交関係	小山友三郎	工藤	12月22日	
499	書状	書札奉呈につき披露方依頼のこと	津軽監物	堀川美濃守，高津因幡守	12月	
500	書状	老生疲労失礼のことほか	老父	相馬河子貞	霜月 3 日	
501	書状	執政者としての心構え等についての所信	細川越中守	松平越後守	11月 5 日	返信
502	書状	亡父 3 回忌法要の案内状を差し出さない件について	藤田愛之進	豊嶋 某	11月 9 日	
503	書状	交際関係や世情のことなど	野老[棟方晴吉(貞敬)]	御大将	11月10日	
504	書状	御殿女中，中臈頭の給禄(12両 2 人扶持)改善に関すること	中村弥右衛門，青山藤次郎	海老名孝吉，成田乙治，千田百次郎	11月17日	
505	書状	白氏文集・墨場必携および秘書簡返上について	三上	松井賢契	仲冬念(11月20日)	
506	書状	砲術に関することほか私信	篠崎 進	岩田平吉ほか 4 名連記	11月22日	
507	書状	餅米，種粳等送付に関する事；鯛到来と呈上に関する事ほか	彦一郎	父	11月25日	
508	書状	届物に対する礼文，手違事に対する取計らい方，その他	市原斎一	岩田成蔵	11月25日	
509	書状	用務をめぐるの私信	勇吉		10月 5 日	
510	書状	生活費援助の懇談について	唐内坂 小野荘助	宮館村 对馬儀兵衛	10月17日	
511	書状	官府出来につき出頭の連絡に対する返書	上	権蔵	10月18日	
512	書状	御鐘持元八駕籠料等拝借分の返納に関する事	北原蔵人	野呂与五左衛門	10月24日	
513	書状	「文章撰格」もらい受けについての私信	橘 東世	神 盛苗	10月30日	

分類番号	資料名	内 容	差 出 人	宛 先	年・月・日	注 記
514	書状	訪問についての私信	高森三四郎, 足羽次郎三郎	松井四郎兵衛	9月13日	
515	書状	抛金についての礼状	矢代尚誠	桜庭左次馬	8月7日	
516	書状	逍遙, 馳走相伴に対する礼, その他	主馬	十左衛門	8月14日	
517	書状	甲冑登せ方その他について	純蔵	弟・多吉	8月	
518	書状	国元への書信送達の件	赤石礼次郎	内山又助	7月3日	赤石礼次郎: 仇討ち後自害した愛太郎亡きあと, 親類より赤石家に入り継ぐ。鯨ヶ沢町奉行, 京都留守居役
519	書状	大平への伝言依頼に関する事, その他の私信	和助	檀那	7月4日	
520	書状	勤務に関わる身辺の動静, 青森商社積金に関する事等, 私信	勘八郎	助右衛門	7月19日	
521	書状	もてなしに対する礼状	弥助	二奥様	7月25日	
522	書状	鮎釣, 稲作柄その他についての私信	淳八	栄太郎	7月28日	
523	書状	絹帷子布地恵与に対する礼文, ほか5件			7月28日	薄藍色染紙
524	書状	身上に関する事	豊吉	叔父(穩本)	正月8日	
525	書状	若殿様下向につき留守居詰登せ方について, その他	鉄之助	山形先生	1月11日	
526	書状	年頭の挨拶, 付き合いや世情に関する事など	三戸太郎作	工藤彦四郎	正月12日	
527	書状	私信	親	和五郎	正月15日	
528	書状	稽古初めにつき来駕の願い	平三郎	十左衛門	1月18日	
529	書状	買越米代金の調達方に関する事	山形宇兵衛	三ヶ組代官中	2月1日	
530	書状	田地耕作をめぐる争論と決着に関する事	筑館庄右衛門	高館村 長助	2月7日	
531	書状	安否, 気候, 米価その他の消息	石岡兼二郎	豊嶋	2月14日	
532	書状	相伴にあずかっの礼状	治平	一丁目(御取次中)	2月15日	

分類番号	資料名	内 容	差 出 人	宛 先	年・月・日	注 記
533	書状	交際に關しての私信	盛孝	勘右衛門ほか	2月27日	
534	書状	立贈米不納をめぐっての対応等について	石山八十八	宮館村 弥五左衛門	2月26日	上包あり、「他見無用」
535	書状	飯料携米に關すること	庄屋 兵左衛門	福原	3月2日	
536	書状	御里披御祝儀につきすめ進上のこと	岩田成蔵	楠美泰太郎	3月4日	
537	書状	人別帳清書・勤化上納家業御役上納等、その他7件に關すること	福次郎	吉右衛門	3月6日	
538	書状	交際や身辺・世情等もろもろのことについて	祖父	左馬之丞	3月9日	
539	書状	鱧の贈物に対する礼文、異国船到来や桜田門外の姿、その他に關しての私信	長崎勘介	豊島六次郎	万延元年(1860)か、3月10日	裏書：豊島六次郎へ長崎勘介書 黒石藩家老此人承叙公ヲイサメテ切腹／YK215-192 桃能積雪、ほか
540	書状	尊書（内容不評）への対応その他について	忠吉	兄	3月15日	
541	書状	道具代金の支払い方について	恒七	[] (虫食い)	申年3月28日	
542	書状	厚意に対する謝意と訪問するについての私信	大江	迅速先生	4月5日	
543	書状	箱館(カ)へ向けての軍艦・商船の艦船名、船将、乗組員人員等や諸藩の渡海人数(150~160)等の報知その他について	愛太郎	伯父	4月8日	
544	書状	五十嵐氏の画像作成依頼について	益三郎	新井勝峯	(幕末)4月12日	封筒入り
545	書状	西光寺和尚死去の処、内事あり焼香参上遅延のため、供物依頼の件	木村	町田	5月10日	
546	書状	友吉への対応についての意見書	(少参事) 岩淵惟一	(権大属) 喜多村弥平治	5月24日	
547	書状	時勢に關しての私信	瀬之進	兄	6月2日	
548	書状	京都東本願寺使僧真教寺に滞留につき、伺いのための使者派遣に關すること	葛西彦六	八木橋徳次	6月13日	
549	書状	消息等	長さき 左忠	お阿里	6月13日	
550	書状	藤太、横浜より用務に關わる諸事について	弘前御近習小姓 成田藤太	六次郎	6月16日	

分類番号	資料名	内容	差出人	宛先	年・月・日	注記
551	書状	干魚類等音物に対する謝礼, その他私信4件	忠吉	兄	6月21日	
552	書状	茶事稽古に関する私信	大森一黙斎	秋元奎之丞	亥6月25日	
553	書状	南部甲斐守, 従五位下に叙位につき, その旨各位へ伝達の申し入れ	(南部) 瀬山守司, 藤服直禪, 横田季之進	一町田大学, 北原将五郎	6月28日	南部甲斐守: 南部利義(よしとも), 南部藩第39代当主, 文政6年~明治21年(1823~1888)
554	書状	残石高と俵目録記載の数量不一致につき, 調査確認に関する事; 医者への雇用と費用に関する事; その他	鏡太郎	諏訪大先生	5月6日	
555	書状	御済口の送達に関する事; 秋田役人への書翰素文の訂正方に関する事; 人馬調べに関する事; その他	鏡太郎	諏訪大先生	9月13日	
556	書状	書筆呈上に関する事等	星野六蔵(尚賢)	監物, 左右中	6月26日	
557	書状	病気床あげをかね, 十五夜の妻の案内	平三郎	監物	9月13日	
558	書状	受書呈上について	宮沢治左衛門昌庸	津軽監物	10月3日	
559	書状	青森表へ繰り込むに当たっての指示事項と勘定人附添願のこと(承諾と伺い)	貴田孫太夫	三橋左十郎	4月15日	
560	書状	祝儀(男子出産)につき, 三の丸御屋敷へ参上の件につき承諾の返信	津軽左近	三橋左十郎	4月17日	
561	書状	(江戸への) 出立を陸行とすることについて	川村善之進	松井助左衛門	4月17日	
562	書状	交際をめぐっての私信	渡辺平之助	松井助左衛門	7月5日	
563	書状	短歌添削のこと, その他消息等	畑 勇吉(ならびに内)	森ほか	明治38年(1905)~大正3年(1914)	巻紙, 8通貼継
564	書状	切支丹宗門改めの古文書借用について, 石器時代の遺物収集, その他に関して; 借用古文書の返済, 藩政時代より伝わる老舗, 商標の恵投, その他について; このほか5通貼継	三輪常松	森 林助	明治45年(1912)~大正3年(1914)	巻紙
565	書状	所蔵印章の考證に関する事	深浦・円覚寺(海浦義親カ)	森 林助	大正4年(1915)4月5日	
566	書状	注文品(紅燈籠)の荷送, 船便の行き違いで遅滞の記, その他について	東京馬喰町 幸手屋 次郎兵衛	香具屋 吉右衛門	10月朔日	上包あり

分類番号	資料名	内 容	差 出 人	宛 先	年・月・日	注 記
567	書状	注文品の納入に関して遅滞の記, その他	馬喰町 能登屋 幸蔵	香具屋 吉右衛門	午10月2日	
568	書状	内容種々にわたる私信(2白, 3白あり)	隼太	龍太郎	明治(カ)9年 (1876)6月13日	松井隼太-松井龍太郎 (子)内翰
569	書状	身内その他に関する内容の私信	(松井)隼太	龍太郎	8月6日	内翰, 不許他見
570	書状	返書の怠慢を諭すこと, その他世情のこと等 諸般にわたる	隼太	龍太郎	10月8日	
571	書状	田方見分のこと等私信	孝吉	喜太郎	5月26日	
572	書状	貯米茶の取世話その他に関する事	孝吉	喜太郎	6月朔日	
573	書状	大筒方より方に関する事, 出水の節の柁木 舞拾揚げに関する事, その他	孝吉	喜太郎	6月6日	
574	書状	貯米と売出等に関する事; 彦三郎拝借金年 割取延べ等に関する事; その他	孝吉	喜太郎	6月8日	
575	書状	時候(酷暑-華氏90度以上)と稲作に関わる消 息ほか	孝吉	喜太郎	6月16日	
576	書状	貯米残りの扱いに関する事, ほか7件	孝吉	喜太郎	9月6日	
577	書状	①主水宅への呼び出し状(剪紙)②今十内, 多 年勤続につき御番御用捨に関する事	津軽主水	今 十内	①宝暦11年(176 1)2月19日 ② 同年2月20日	2通, 貼継
578	書状	来訪の案内	主水	作右衛門	11月15日	
579	書状	人夫4人, 人馬1疋等の差上方について	今村九左衛門	新屋久兵衛	6月29日	
580	書状	①野田大蔵・小田吉兵衛, 兵食・菜銭調達に関 わる事 ②稲の作柄 ③青森商社取建につ き, 運営のあり方(資金)に関する事 ④そ の他	今村九左衛門	松山(カ)助左衛門	8月4日	
581	書状	迎えのため, 理右衛門を道中まで登らせるこ と	今村九左衛門	松井隼太	閏10月8日	包紙あり
582	書状	秣場取調方催促に関する事	作事奉行	表右筆	4月11日	
583	書状	帰藩の連絡に関する事	阿部宇一郎	弘前藩 御用人 中	4月24日	
584	書状	摂津の一件について	雄之助	弘前様御書記中	5月11日	

分類番号	資料名	内 容	差 出 人	宛 先	年・月・日	注 記
585	書状	従五位の宣下あれど省略中につき祝賀使者断りの件	村役御属 旗 真	弘前御属 召御用人	5月14日	
586	書状	阿部元次郎、天機伺いのため、国元出帆についての連絡	(元次郎内) 斎藤素軒	津軽越中守 留守居中	8月17日	
587	書状	雅君、桜木御殿にでかけられる守衛人数6人参殿方とり計らいのこと	林 日向介、今大路伊予守	小見山藤兵衛	8月19日	
588	書状	浪岡村抱山竿入について	後藤門之丞	浪岡村 代官中	8月25日	
589	書状	横浜本邑町中川や嘉兵衛の米取引に関わること、その他	河津稜威	大道寺族之助	9月11日	上包あり
590	書状	宇和野における操練高覧に関する事	成田弥六	市井調方	9月21日	先欠
591	書状	官邸上地についての布令廻章の件	仙台県 中目尚恵	青森県 工藤則勝	10月朔日	
592	書状	賊徒取調書赤石礼次郎より借用の処、返済遅延についての謝状	熊本御藩 宗村加兵衛	津軽様 詰合中	10月	
593	書状	武芸取調書の送付に関する事、その他6件	詰合	弘前様	11月7日	
594	書状	松前江差順正寺(二条御殿位牌)へ代参山梨内膳渡航のため藩内通過旅泊等に関する件	詰合	弘前様	11月12日	
595	書状	文箱届け方の願い(心月院の御用状)	熊本御藩 公用方(書記)	弘前御藩 公用方御書役中	12月3日	
596	書状	寒中見舞として神仙丸進上のこと	(和州・多武峯) 上田鉄城(盛純)	津軽家御館 御留守居	12月7日	折紙
597	書状	寒中見舞	熊本藩 宗村加兵衛	弘前藩 詰合中	12月	
598	書状	交代下り順年の処、病氣療養のため津軽大隅守名代。大隅守死去につき津軽本次郎名代願出の件	津軽越中守(順承)		安政2年(1855)か	控。大隅守は津軽承祐、安政2年(1855)7月没/TK322.5-186 名代御暇大隅守死去二付名代御暇之儀願書
599	書状	両浜湊口荷上げ品について地入差止めに関する事	棟方角馬	神 太郎吉	慶応4年(1868)2月26日	
600	書状	私信	佐々木高行	大道寺繁禎	明治(カ)15年(1882)7月31日	封筒入り

分類番号	資料名	内 容	差 出 人	宛 先	年・月・日	注 記
601	書状	明治32年、県会議員総選挙の際の運動費300円と利子30円返済について	佐藤誠四郎	今村嘉三郎	明治33年(1900)9月20日	
602	書状	年頭の挨拶と平館詰のため旧年無沙汰の詫び等	佐藤常蔵(正行)	五十嵐所吉	正月3日	半紙折・横, 上包あり
603	書状	御目見のため本陣に詰合の連絡(工藤友蔵ほか22名)	杉山八兵衛	五十嵐所吉	正月14日	
604	書状	松前詰兵士交代につき、奇兵隊並びに組外の者人選に関する事	武芸調方	浅利万之助, 五十嵐所吉	1月18日	
605	書状	出勤方の連絡(急便)	野呂勝三郎	五十嵐処吉	2月12日	追伸3点
606	書状	急用のため、呼出しに応じかねる件と善処方について	勘定奉行	五十嵐所吉	2月12日	
607	書状	子への助情に対する礼、時勢(異国船渡来)に関する事等について	山田貞一	五十嵐所吉	2月25日	封筒入り
608	書状	①昇進について祝文 ②殿様御国下りにつき駕籠調達に関する事、ほか	永野弥左衛門	五十嵐所吉	3月21日	①半紙折・横
609	書状	身辺に関わる事	諏訪喜太郎	宿神明前 五十嵐所吉	3月23日	色紙あり
610	書状	交際(贈答等)関係	純蔵	所吉	5月16日	
611	書状	私事、時候について	釜淵是太郎	五十嵐所吉	5月18日	封筒入り
612	書状	健康回復の見込なく御免願(内容不明)提出の件	葛巻形右衛門	五十嵐所吉	5月29日	
613	書状	体孝院筆物呈上遅延について	喜多村傑男	中畑	6月22日	体孝院は、8代・信明
614	書状	時候の挨拶と身辺についての私信	三上直太郎	五十嵐所吉	6月23日, 6月28日	箱館の様子の紹介は、外国の事ばかりにて申し上げかねる。2信, 半紙折・横, 封筒入り
615	書状	私信(あいさつ等)	柿崎慶助	五十嵐所吉ほか1名	7月7日	
616	書状	伊豆大島辺に異国船来航に関する事; 岩木山方向に彗星出現, これと異国船渡来や南部家百姓蜂起などの事; その他	永野弥門	所吉	嘉永6年(1853)か, 7月27日	

分類番号	資料名	内 容	差 出 人	宛 先	年・月・日	注 記
617	書状	稽古と病気に關すること；異國船浦賀入港に伴う対応等についての情報；國元の氣候・作柄について	太一	所吉	嘉永6年(1853) 8月3日	私信／ペリー来航は、6月3日／YK215-152 異國船浦賀へ着船御達書
618	書状	時候の挨拶その他	加治隼人，六条主計	五十嵐所吉	8月16日	美濃折・横，上包あり
619	書状	本尊供覧の件	浜丁 中村友伯	御上屋敷御矢倉下 五十嵐所吉	9月19日	南本所猿江町慈眼寺
620	書状	蛤御門の変（禁門の変）の状況見分について	五十嵐所吉	五十嵐理門	元治元年(1864) 7月21日	半紙2枚
621	書状	京都の警衛に關すること，その他	五十嵐理門	(父)五十嵐所吉	元治元年(1864) か，7月23日	封筒入り／YK322.5-262 京都御守衛御警衛心得之條々，GK215-177 禁裏守衛記事
622	書状	京都三条殿へ参上の節金子頂戴の件ほか，京都での消息等	(五十嵐)所吉	理門	8月7日	
623	書状	長州藩の京都擾乱に關わる情勢報告と私見について，追伸一江戸より警固人員のこと			元治元年(1864) か，8月23日	
624	書状	守衛（京都）交代に關すること，その他私信	所吉	理門	8月24日	
625	書状	京都の情勢に關わること等	(五十嵐ヵ)所吉	五十嵐理門	9月24日	上包あり
626	書状	長州征伐に關わる情報や京都の様子等について	五十嵐所吉	五十嵐理門	元治元年(1864) 11月27日	YK215-235 [長州追討留書]
627	書状	藩主京都詰合のため，國元より御手廻等急きょ上京の件（人員や登せ物等），その他2件	五十嵐理門(貞幸)	(父)五十嵐所吉	元治2年(1865) か，正月3日	YK215-226 [京都警衛覚書]，YK216-10 西京弘前藩邸紀事，GK342-56 御上京御入用廉分調
628	書状	御用のため登城の申付書（剪紙）に対する御請下書	五十嵐所吉(貞隆)	添田有方(貞利)，山兵部，楠莊司，佐茂助，釜多門	文久元年(1861) 12月14日	裏書：文久元辛酉年十二月十四日御連名御剪紙到来ニ付，御請下書。半紙折・横
629	書状	御用状（登城申し付け）に対する返書	五十嵐所吉貞隆	西 宇膳，本東作，佐茂助，釜多門	文久3年(1863) 2月14日	文久三癸亥年下書御馬廻番頭格，武芸元締方被仰付候。半紙折・横，上包あり
630	書状	御用（内容不詳）に対する返書	五十嵐所吉	奈良岡東馬，工藤友蔵	2月15日	用件不詳

分類番号	資料名	内容	差出人	宛先	年・月・日	注記
631	書状	熊之丞病死について、病症と治療経過、及び葬送についての知らせ	五十嵐所吉	秋元蔵主	9月晦日	
632	書状	江戸上りの道中の様子、院内で対馬徳司の墓詣のこと、ほか	五十嵐所吉	(父)五十嵐屯蔵	3月24日	半紙折・横、上包あり
633	書状	異国船来航に関わる世情その他	五十嵐処吉	尊父	嘉永6年(1853)か、6月29日	
634	書状	贈物到着についての礼文、その他世情や種々の用件に関する私信	処吉	尊父	7月8日	
635	書状	両国辺の盆の頃の状況、異国船来航に関わる幕府の対応、その他についての私信	五十嵐所吉	父	7月14日	
636	書状	異国船渡来以来、江戸における世相や不景気の状況；その他について江戸よりの私信	処吉	尊父	嘉永6年(1853)か、8月16日	
637	書状	身辺・世情その他についての私信	五十嵐所吉	父	安政元年(1854)か、9月15日	
638	書状	父子間の諸事にわたる往復書信	処吉	尊父		
639	書状	長州の武備、物価高などの天下の形勢・世相をめぐってのこと(内事)	菊池礼吉	五十嵐所吉	5月4日	封筒入り
640	書状	江戸だんご坂の菊細工のこと；加賀屋敷における剣術の稽古見分のこと；その他10件についての私信	菊池礼吉	五十嵐所吉	9月29日	封筒入り
641	書状-御内覧-	異国船渡来に伴う応変や物価高値のこと等世情に関すること、その他についての私信	(若党丁ニて)菊池禮吉	五十嵐所吉	嘉永6年(1853)か、12月9日	封筒入り/木版刷1枚：御府内町々御救惣高等、安政5年(1858)9月付、御付内町々御救人別書惣高、御仁恵御救年略附；半紙判
642	書状	早々出勤についての連絡	小見山藤兵衛	桜木町 五十嵐所吉、野呂勝次郎	正月22日	小見山藤兵衛：天保13年(1842)京都留守居、まもなく御廻番頭格、文久2年(1862)徒頭格、慶応2年(1866)隠居
643	書状	詰合中の京の様子と防・長二藩に対する処置をめぐっての動静等について；野呂勝二郎出奔と対応に関すること	小見山藤兵衛(守位)	五十嵐所吉	6月15日	YK215-257〔京都御警衛留書〕、YK216-46 上方騒動一件留、GK215-175京都小見山藤兵衛来状其他、ほか

分類番号	資料名	内 容	差 出 人	宛 先	年・月・日	注 記
644	書状	京都守衛用務のため上京の際の住居の手配について	小見山藤兵衛	五十嵐所吉	7月15日	上包あり
645	書状	住宅移転取計い方について	小見山藤兵衛	五十嵐所吉	12月9日	
646	書状 (剪紙)	西館平馬一統旅宿用寺院見分のため同行伺い一口上	小見山藤兵衛	五十嵐所吉	12月11日	
647	書状	野呂源太旅宿へ駆け込んだ桑名藩飛脚への対応について	小見山藤兵衛	五十嵐所吉	12月12日	
648	書状	新春の挨拶, アメリカへの対応に起因する給金の減額をめぐる身辺のこと等	江戸表 小野元秀	五十嵐所吉	嘉永7年(1854)か, 正月3日	封筒入り
649	書状	松前海岸防御人の名簿	小野元秀	五十嵐所吉	2月22日	前文欠損
650	書状	借金の返済について	元秀	五十嵐	12月12日	2点
651	書状	地震により深川八幡宮額堂潰滅につき, 新規額奉納金の取り決めその他に関する事;地震による住居及び新吉原の被災状況について;種田流門弟名簿	上田英之進	五十嵐所吉	安政3年(1856)2月7日	安政2年10月2日, 江戸を中心に大地震・大火/3通。半紙折・横, 上包あり/GK215-119 [地震の被害報知の手紙]
652	書状	江戸柳嶋屋敷類焼, その他江戸火災の状況と見舞等に関する書信; その他6件についての書信	上田英之進(皆光)	五十嵐所吉	安政3年(1856)3月24日	M66 柳島御屋敷御絵図面ほか
653	書状	江戸, 8月25日の風水害による長屋破損や浜町屋敷の被害, これらに関わる諸情報について; 8月28日, 細川越中守四男姫君へ聲養子取り決めのこと; その他	上田英之進	五十嵐所吉	安政3年(1856)9月3日	細川越中守4男寛五郎, のち12代藩主承昭
654	書状	旅中の処到着につき, 伝声の願	福田兵九郎(清之)	五十嵐所吉	11月16日	半紙折・横, 封筒入り
655	書状	旅中貨銭(本馬・軽尻銭・旅籠銭等)のこと, その他	(福田)兵九郎	伯父		半紙折・横
656	書状	約束の鎖, 風邪のため届け方延引についての詫状	細川正義	五十嵐所吉	正月27日	
657	書状	注文の鎗を届けるについての私信	細川正義	五十嵐所吉	2月20日	
658		書状上包	(江戸より)工藤岩次	五十嵐所吉	5月22日	
659	書状	浦賀へ異国船来航の際の対応に関わる私信, その他について	工藤喜右衛門	五十嵐所吉	嘉永6年(1853)か, 8月7日	

分類番号	資料名	内 容	差出人	宛 先	年・月・日	注 記
660	書状	包物登せ方, その他5件について	工藤喜右衛門	五十嵐所吉	9月18日	
661	書状	酒送る, ついては酩酊・不覚に留意のほど, 品良く取計らいのこと	岩淵彦右衛門	八木橋左大夫, 五十嵐所吉, 会田熊吉	9月7日	
662	書状	御礼その他の私信	駒越村 文二郎	旦那 五十嵐所吉	9月20日	半紙折・横, 上包あり
663	書状	私事・処世・世情(夷賊防御等)関係その他	屯蔵	処吉	10月11日	9月24日八幡宮神輿通行
664	書状	身辺の動静や水戸藩仕置き等世情について	小暮本左衛門	五十嵐所吉	10月14日	上包あり
665	書状	倅の病氣治療と看病及び, 死後葬送その他に對しての礼状	秋元蔵主	五十嵐所吉	10月25日	上包あり
666	書状	武用具(陣羽織等)調達金等の拝借に関する こと	葛西処一	五十嵐所吉	11月4日	
667	覚	武器類高直につき金三両ずつ拝借願ひ	葛西処一, 五十嵐所吉, 藤本銀司	一戸八五郎, 兼松三郎	10月	折紙, 上記文書に包まれてあり。兼松三郎は成言
668	書状	江戸表武器高騰, 国元武芸稽古, 特に砲術稽古の奨励等について	栗原春弥	五十嵐所吉	11月4日	
669	書状	時勢についての私信	源蔵	処吉様	11月9日	
670	書状	合船入用材役銭の件	佐野勇吉	五十嵐所吉	12月29日	
671	断簡	断簡	赤松桑之助	五十嵐所吉		内容不詳
672	書状	気候と農作のことなど私信		処吉	5月13日	
673	書状	病氣, 老年による隠居願と倅奉公見習組み入れ願に関すること	五十嵐忠右衛門(貞正)	廻間新助ほか1名	天明4年(1784)9月7日	
674	書状	愛太郎(赤石)の一件について	花田斧弥	五十嵐屯蔵	安政元年(1854)7月27日	
675	書状	51年勤務, 加齢(70歳)につき, 御役赦免願について	五十嵐屯蔵(貞正)	野宮伴左衛門, 戸田理吉	安政3年(1856)5月4日	半紙2枚綴
676	書状	守衛不揃の武器及び貸人等についての返書	河野六郎	五十嵐所吉	文久3年(1863)8月24日	
677	書状	身辺消息, 世情(七卿落, 奇兵隊等)に関する私信	菊之助	五十嵐(所吉), 野呂	文久4年(1864)か, 1月29日	「七卿落」は, 文久3年8月18日の事件

分類番号	資料名	内 容	差出人	宛 先	年・月・日	注 記
678	書状	桜木町御殿詰に関する事；天狗党の動静に関する北関東地域の風聞等；国元稲作のこの年の予想について	佐藤伊三郎	五十嵐所吉	元治元年(1864) か、7月12日	
679	書状	一粒金丹の代金支払いをめぐるの私信	北岡太淳	下沢保躬	明治5年(1872) か、2月27日	封筒入り
680	書状	時候伺いや世情(米価)等についての私信	川村覚之丞	下沢八三郎(保躬)	明治3年(1870) か、9月29日	
681	書状	四十七士追福に関わる事、神祭葬の家風に改める事等についての私信	兼松三郎(成言)	下沢八三郎(保躬)	明治4年(1871) 3月17日	
682	書状	短歌添削の依頼その他について	佐々木光雄	下沢保躬	明治7年(1874) 12月18日	
683	書状	詩文についての所見に関する事、その他の私信	木村藹吉	下沢保躬	明治8年(1875) か、12月5日	
684	書状	津軽家系譜取調依頼について	盛苗	(下沢)保躬	明治10年(1877) 3月11日	裏書：明治10年3月16日 午前8時達西京より
685	書状	父、兼松成言の遺品呈上について	兼松 良	下沢保躬	明治10年(1877) か、12月28日	YK289-34-1 碩儒兼松石居先生、ほか
686	書状	交際に関わる私信	工藤 儀	下沢 鳳(保躬)	1月9日	
687	書状	柳原氏宅焼失に関する私信	誠	保躬(躬)	明治7年(1874) か、2月10日	
688	書状	古稀の祝に関する身辺・付き合いのことども	盤根	下沢賢契(保躬)	4月11日	半紙
689	書状	消息ほか	たき	保躬	4月20日	
690	書状	離盃盡献につき元寺町山野方へ枉駕の案内状	小川昌子	下沢保躬	6月4日	
691	書状	子息の教導引き受けに関する私信	兼松成言	下沢保躬	6月11日	
692	書状	大円寺堤万葉亭へ話談のため枉駕の案内状	広田善春、高山静	下沢保躬	7月17日	裏打
693	書状	神仏分離に伴う神祇官職について、長利氏をめぐるの私信	阿部季平	下沢保躬	明治3年(1870) か、9月26日	長利仲聴：弘前熊野宮宮司、稽古館学士取扱。明治3年9月、神祇道改革について藩命により上京、「御覧済火中」とあり

旧八木橋文書

分類番号	資料名	内 容	差 出 人	宛 先	年・月・日	注 記
694	書状	熊野宮の昇格（一ノ宮）を目する長利薩雄の策をめぐっての私信	小野磐根	八三郎（下沢保躬）	明治3年(1870)か、9月29日	「御覽後御火中」と裏書あり
695	書状	詠歌についての私信	愛楼亭	下沢保躬	10月27日	
696	書状	高橋富兄（国学の大家）へ書信を宛てるにあたっての高橋氏の紹介文	小川昌子	下沢保躬	11月22日	裏打
697	書状	歴史編集についての一存、その他についての私信	有格	下沢（保躬）	12月17日	
698	断簡	坊主差し下しの事			宝永2年(1705)	後半欠
699	断簡	大坂詰の者（4名）差し下しの件			宝永7年(1710)	
700	断簡	断簡				内容不詳
701	断簡	断簡				内容不詳
702	断簡	斎藤次郎作、馬廻技擧願その他に関する事				
703	断簡	雨具、ケットの類、弾薬の持参等について	山野主馬（元敏）	山田十郎兵衛	4月5日	前文欠
704	断簡	断簡	山野主馬（定敏）		4月5日	前文欠
705	覚	拝借金の件				断簡か
706	断簡	右京様腹痛投薬の件				
707		断片				
708	覚	江戸詰合登りについて				前部欠か。役職・氏名列記
709	覚（断簡）	徳増寺（聴音）、白狐寺（龍弁）修学登の諸納金および旅費の工面に関する事	寺社役			
710	答書	身上に関する事				原稿、一葉のみ
711	断簡	布地の買上方その他について	左膳			前欠
712	断簡	断簡				
713		断片				
714	断簡	御下屋敷拝領の年月日を知る者についての調査依頼				
715	断簡	殿様薬効あり快気ほか				

分類番号	資料名	内容	差出人	宛先	年・月・日	注記
716	断簡	断簡				内容不分明
717	断簡	扶持大工江戸登のこと、他不明				
718	断簡	仏像に関わる問い合わせ等のこと				
719	断簡	贈上寺において青揚院法事についての書付を差し下す件、その他若殿近況				御用之覚
720	断簡	断簡				内容不詳
721	断簡	米積船破船、その他				
722	断簡	普請（物件不明）に関わる進物等についての書状				前文・後文欠、巻紙
723	願文	名越之伝 天明3年の飢饉に関わる祈願文	藩主（8代信明）		天明4年(1784) 4月27日	写、藩主謹白
724		末期願書付 病重く存命不定につき、悴奉公の願出について	葛西文弥	斎藤小左衛門	寛政2年(1790) 卯月(4月)	明和3年(1766)7月28日 親左中跡式、御切米20俵 2人扶持
725	証文	差上申證文之事 御法度の蜜の売買を行った者に対する処置とこれに関する誓約の事	太郎右衛門ほか村 中連名	庄屋 長右衛門 五人組	寛政8年(1796) 4月	
726		雅楽演奏次第	菅原祐典		寛政11年(1799) 12月24日	末尾に後筆あり：寛政末年為勤学和学及雅楽上京 禁中御遊之日従林雅楽権 了於内侍所北小松原拝聴
727		短歌	志月		享和元年(1801) 8月13日	廻郷先木造村での詠歌
728		通行許可状 津軽越中守手船（米積船）大坂向浦々通行許可願	工藤仁十郎、重田 伝十郎	津々浦々 御役 人衆	文政9年(1828)	
729	証文	差上申證文之事 仕立山、立木伐取に関する こと	弥兵衛ほか証人	大平忠三郎（長 右衛門）	天保8年(1837) 11月	
730	証文	約定證文	伊勢屋善太郎	白銀屋惣助、仲 立・松田屋忠三 郎	天保14年(1843) 8月	家賃銭用立てに関するこ と
731	手形	預手形	笹 玄徳	玉田屋銀蔵	嘉永元年(1848) 7月22日	借入金預り、上包あり
732		深川八幡宮社参御行列帳			嘉永6年(1853) 正月28日	明治36年旧5月8日 古 川斧八写

分類番号	資料名	内容	差出人	宛先	年・月・日	注記
733	証文	御渡被仰付候甲冑證文之事	成田重左衛門		安政2年(1856) 12月	宛 明珍八五郎 紀宗貞 作 頬面ほかについて説 明文・製作者名記載。上包 あり
734	借用書	借用書	大道寺靱負	村上又兵衛	安政4年(1857) 5月	
735	納品書	納品書	京都麩屋町三条上 西側 船橋清左衛 門	竹内半左衛門	明治14年(1881) 8月29日	印鑑, 送料(書留料とも)
736	請取書	請取書(衣料等)	弘前本町 金木屋		明治19年(1886) 6月12日	
737	請取証	請取証	笹森勝太郎	相田周五郎	明治24年(1891) 4月10日	綿入3枚ほか
738	受取証	受取証		丸泉	午4月	
739	領収書	領収書	川村庄左衛門	油屋 音助	9月30日	18匁(筑前, 本尺のし, 1 把4枚入)
740	領収証	領収証	御役所	大平忠三郎	子戌(ママ)9月 20日	御用金4両2歩1朱と錢 19匁2分2厘
741	見積書	見積書	鎌田屋	大平	3月25日	
742		漆代錢内訳書	大平長右衛門			
743	領収書	領収書	加田屋 佐兵衛	伊勢屋 周五郎	午4月9日	
744	領収書	領収書	東都葺屋町 盃楯 口圃師 源七	加田屋	4月20日	
745	領収書	領収書	嶋屋 嘉兵衛	油屋 音助	9月28日	平紬1反
746	領収書	領収書	中井屋 庄兵衛	油屋 乙助	9月29日	印形袋5匁
747	領収書	領収書	(東京通油) 叶七 兵衛	上	9月28日	中啓・舞扇・ほんぼり
748	納品書	納品書				雪平ほか, 付紙あり
749	納品書	納品書(カ)	京都 戎屋才兵衛	茂盛町 伊勢屋 周五郎	2月大吉日	唐扇ほか, 封筒入り

分類番号	資料名	内 容	差 出 人	宛 先	年・月・日	注 記
750	借用証	借用証				酒代, 下書
751	見積書	見積書(カ)				下書, 美濃折, 横
752	預り證	石塔工料(金三步) 預りと職人への渡し方について	羽州山形 後藤小平治	津輕越中守内 対馬幸吉	辰9月2日	
753	覚	納品書(カ)	角治 荒物卸店	上	6月13日か	
754		御前, 侍従, 大殿の附人名簿				巻紙
755	受取証	御供料	白川殿 御役所	菱屋仁左衛門	4月21日	
756		嘆願書 國元脱籍, その後の経緯と復籍願のこと	対馬雄之助	二ツ目御屋敷 公用方	3月	
757		道中割	西館徳衛			弘前→江戸→京都 道中泊日程。江戸→京都 道程。